

令和4年度

岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査結果

～現場に役立つ教育センターを目指して～



【目次】

I	実施概要	1
1	調査目的	
2	調査対象	
3	調査期日	
4	調査内容	
5	調査方法	
6	回答数及び回収率	
II	研修・支援・研究業務の推進に関する調査・分析（小中高特）	3
1	回答者に関わる調査	3
2	研修業務推進に関わる調査	4
3	支援業務推進に関わる調査	2 1
4	研究業務推進に関わる調査	2 3
5	研修・支援・研究業務への意見・要望と当センターからの回答	3 4
III	研修・支援・研究業務の推進に関する調査・分析（幼稚園等）	4 2
1	回答者に関わる調査	4 2
2	研修業務推進に関わる調査	4 2
3	支援業務推進に関わる調査	4 7
4	研究業務推進に関わる調査	4 8
5	研修・支援・研究業務への意見・要望と当センターからの回答	5 6

I 実施概要

1 調査の目的

教育現場のニーズを把握し、令和5年度以降の総合教育センターにおける研修・支援・研究業務の推進に役立てる。

2 調査の対象

- (1) 市町村立幼稚園・保育所・幼稚園型認定こども園 (54園)
- (2) 私立幼稚園・保育所・認定こども園 (146園)
- (3) 市町村立小・中・義務教育学校 (小：286校、中：144校※、義務教育学校1校※)
- (5) 県立中学校 (1校)
- (6) 県立高等学校 (65校※)
- (7) 市立高等学校 (1校)
- (8) 県立特別支援学校 (15校※)
- (9) 国立幼・小・中・特別支援学校 (4校) 計 717 校(園)

※分校、課程別、校舎別も1校としている。

3 調査時期

令和4年2月

4 調査の内容

- (1) 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査 (対象：小・中・義務教育学校・高・特支)
 - ①研修業務推進に関わる調査
 - (ア) 研修講座の活用について (質問5～質問7)
 - (イ) 研修内容に対するニーズについて (質問8～質問11)
 - ②支援業務推進に関わる調査
 - (ア) 各研修・相談に対するニーズについて (質問12～質問13)
 - ③研究業務推進に関わる調査
 - (ア) 研究成果物の活用について (質問14～16)
 - (イ) 研究成果物の入手方法について (質問17)
 - ④総合教育センターの研究内容に対するニーズについて (質問18)
 - ⑤スタートカリキュラムについて (小：質問19～23)
 - ⑤Gアップシートの活用について (中・高：質問19)
 - ⑥総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望
(小：質問24、中・高：質問20、特：質問19)
- (2) 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査 (対象：幼稚園、保育所、認定こども園)
 - ①研修業務推進に関わる調査
 - (ア) 研修講座の活用について (質問4～質問6)
 - (イ) 研修内容に対するニーズについて (質問7～質問8)
 - ②支援業務推進に関わる調査

- (ア) 各研修・相談に対するニーズについて（質問9～質問10）
- ③研究業務推進に関わる調査
 - (ア) 研究成果物の活用について（質問11）
 - (イ) 研究成果物の入手方法について（質問12）
- ④総合教育センターの研究内容に対するニーズについて（質問13）
- ⑤教育体制、教育課程について（質問14～質問18）
- ⑥スタートカリキュラムについて（質問19～22）
- ⑦指針による教育・園内研修（質問23～24）
- ⑧総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望

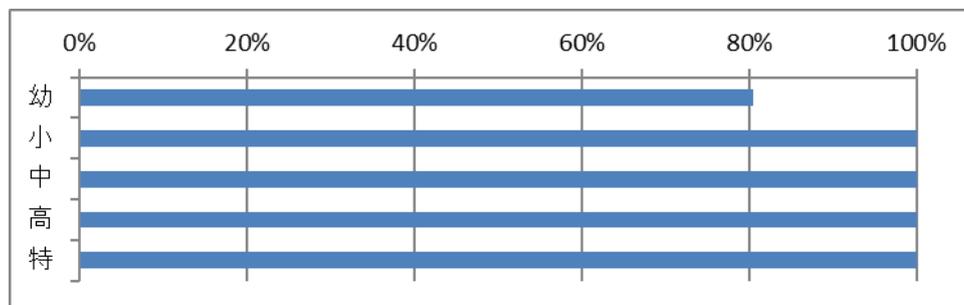
5 調査方法

調査は、岩手教育情報交流ネット、デスクネット、メールを利用して行った。

6 回答数及び回収率（小・中・高・特は県内国公立）

校種	対象数	回答数	回収率	参考 (R2回収率)
幼稚園等	200	161	80.5%	65.0%
小学校・義務教育学校前期	288	288	100.0%	100.0%
中学校・義務教育学校後期	147	147	100.0%	100.0%
高等学校	73	73	100.0%	100.0%
特別支援学校	16	16	100.0%	100.0%

※Ⅱ以下の割合については、この表中の回答数を基に算出。



※調査対象について

- ・幼稚園等についての幼稚園からの回答は42園（26.1%）。
- ・また、高等学校については、前回R2年度の調査から県立学校のみとした。

Ⅱ 研修・支援・研究業務の推進に関する調査・分析（小中高特）

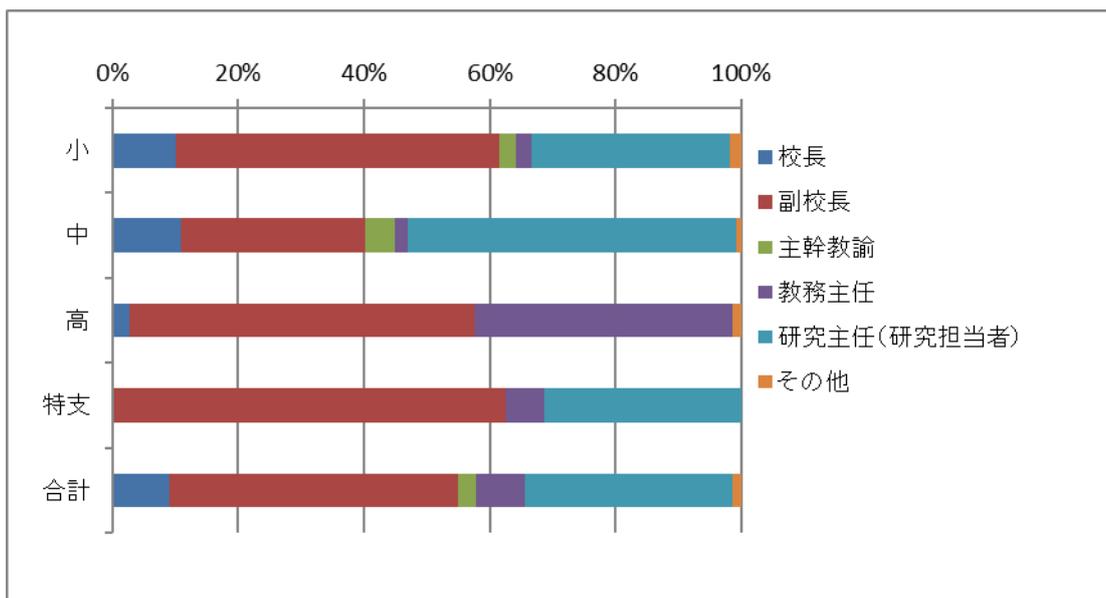
1 回答者に関する調査（質問1・質問3）

【質問1】あなたの学校の校種を回答してください。

【質問3】回答者の職名（校務分掌）を回答してください。

	小	中	高	特支	合計
校長	29	16	2	0	47
副校長	148	43	40	10	241
主幹教諭	8	7	0	0	15
教務主任	7	3	30	1	41
研究主任(研究担当者)	91	77	0	5	173
その他	5	1	1	0	7

	小	中	高	特支	合計	R2	H30	H28
校長	10.1%	10.9%	2.7%	0.0%	9.0%	/	/	/
副校長	51.4%	29.3%	54.8%	62.5%	46.0%	61.9%	70.1%	59.9%
主幹教諭	2.8%	4.8%	0.0%	0.0%	2.9%	2.2%	2.2%	1.9%
教務主任	2.4%	2.0%	41.1%	6.3%	7.8%	10.2%	8.8%	8.7%
研究主任(研究担当者)	31.6%	52.4%	0.0%	31.3%	33.0%	25.7%	18.9%	29.4%
その他	1.7%	0.7%	1.4%	0.0%	1.3%	/	/	/



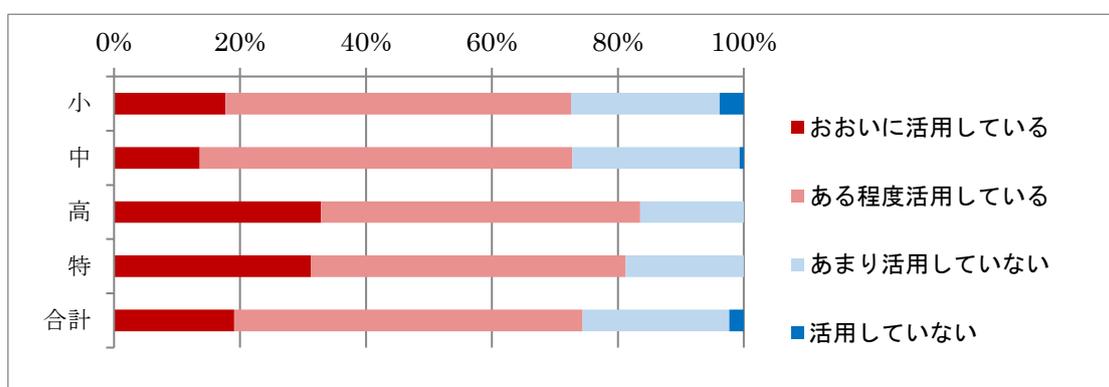
2 研修業務推進に関わる調査

(1) 研修活用状況に関わる調査（質問5）

【質問5】回答者からみて、貴校職員が当センターで研修した内容をどの程度活用していますか。

	小	中	高	特支	合計
おおいに活用している	51	20	24	5	100
ある程度活用している	158	87	37	8	290
あまり活用していない	68	39	12	3	122
活用していない	11	1	0	0	12

	小	中	高	特支	合計	R2	H30	H28
おおいに活用している	17.7%	13.6%	32.9%	31.3%	19.1%	17.0%	15.1%	13.8%
ある程度活用している	54.9%	59.2%	50.7%	50.0%	55.3%	65.9%	67.6%	66.4%
あまり活用していない	23.6%	26.5%	16.4%	18.8%	23.3%	16.1%	16.0%	18.6%
活用していない	3.8%	0.7%	0.0%	0.0%	2.3%	1.1%	1.3%	1.2%



〈参考R2〉

	小	中	高	特支	合計
おおいに活用している	14.2%	22.4%	15.8%	23.5%	17.0%
ある程度活用している	65.0%	63.8%	75.0%	58.8%	65.9%
あまり活用していない	19.1%	13.8%	7.9%	17.6%	16.1%
活用していない	1.7%	0.0%	1.3%	0.0%	1.1%

〈参考H30〉

	小	中	高	特支	合計
おおいに活用している	14.7%	18.5%	8.7%	18.8%	15.1%
ある程度活用している	65.2%	68.2%	75.4%	75.0%	67.6%
あまり活用していない	18.5%	12.7%	14.5%	6.3%	16.0%
活用していない	1.6%	0.6%	1.4%	0.0%	1.3%

〈参考H28〉

	小	中	高	特支	合計
おおいに活用している	15.5%	7.0%	22.2%	6.7%	13.8%
ある程度活用している	63.2%	72.8%	63.9%	80.0%	66.4%
あまり活用していない	19.8%	19.0%	13.3%	13.3%	18.6%
活用していない	1.5%	1.3%	0.0%	0.0%	1.2%

研修した内容の活用状況について、「おおいに活用している」と回答した割合は小（17.7%）・中（13.6%）・高（32.9%）・特（31.3%）で、全体としてH28年度から1～2ポイントずつ高くなっている。しかし、「おおいに活用している」「ある程度活用している」と回答した割合は74.4%であり、R2年度比で-8.5ポイントとなった。理由については（3）の質問7の回答を参照。

(2) 活用している研修（質問6） [自由記述]

【質問6】「質問5」で「おおいに活用している」「ある程度活用している」と回答した場合のみお答えください。どのような研修内容を学校で活用していますか。具体的な研修の講座名と内容を箇条書きで記入してください。

ア 小学校

研修内容	回答数	割合	R2	H30	H28
基本研修	62	24.2%	14.5%	16.6%	14.3%
教育研究発表会	44	17.1%	12.5%	8.0%	12.2%
特別支援教育	43	16.7%	17.5%	19.8%	18.3%
ICT活用	12	4.6%	(14.5%)	(3.8%)	(5.2%)
中堅研（授業力向上研修）	11	4.3%	(14.2%)	(12.8%)	(18.3%)
生徒指導	10	3.9%	17.1%	16.9%	4.9%

※今回調査で回答数の多いもの上位6項目、H28～R2のICT活用は情報教育とプログラミングを合算したもの（参考）

イ 中学校

研修内容	回答数	割合	R2	H30	H28
基本研修	40	30.7%	18.4%	19.7%	11.4%
教育研究発表会	22	16.9%	13.8%	8.3%	8.9%
中堅研（授業力向上研修）	9	6.9%	(12.5%)	(11.5%)	(11.4%)
教育相談	8	6.1%	7.2%	5.1%	5.7%
特別支援教育	7	5.3%	9.8%	15.3%	15.8%

※今回調査で回答数の多いもの、上位5項目

ウ 高等学校

研修内容	回答数	割合	R2	H30	H28
高校専門・教科スキルアップ	25	26.0%	(17.1%)	(24.6%)	(13.9%)
教育相談	19	19.7%	15.8%	13.0%	22.2%
特別支援教育	14	14.5%	18.4%	15.9%	22.2%
基本研修	13	13.5%	34.2%	53.6%	34.7%
新任研修	4	4.1%	21.1%	23.2%	—
教育研究発表会	2	2.1%	5.3%	—	—

※今回調査で回答数の多いもの上位6項目、H28～R2の高校専門・教科スキルアップは授業力向上研修（参考）

エ 特別支援学校

研修内容	回答数	割合	R 2	H30	H28
I C T活用	7	30.4%	(11.8%)	(—)	(46.7%)
教育相談	6	26.0%	29.4%	—	—
特別支援教育	4	17.3%	29.4%	47.1%	—
基本研修	3	13.0%	17.6%	23.5%	—
教科	3	13.0%	—	—	—

※今回調査で回答数の多いもの上位5項目、H28～R2のICT活用は情報教育（参考）

教育研究発表会の活用割合が、小学校・中学校においては基本研修に次ぐ回答数となり、小学校17.1%（前回12.5%）、中学校16.9%（前回13.8%）であった。R4年度より参加形態の選択肢が増えたことやICTの活用等への関心の高さが反映されていると考える。教育研究発表会の内容が、岩手の教育課題に即したものとなり学校や個人が抱える課題解決等の手掛かりになるよう、引き続き努めていく。

また、特別支援教育や教育相談の研修を活用していると回答した割合は、小学校（16.7%）、中学校（11.5%）、高等学校（26.0%）、特別支援学校（43.4%）であり、すべての校種において上位5項目の中に入った。学校や研修者のニーズに応じた内容が受講できるよう、引き続き充実を図っていく。

(3) 活用していない理由に関わる調査（質問7） [自由記述]

【質問7】「質問5」で「あまり活用していない」「活用していない」と回答した場合のみお答えください。当センターで研修した内容を活用していない理由は何ですか。

回答内容	回答数	割合	R 2	H30	H28
コロナ禍のため参加を控えた	31	22.4%	—	—	—
業務の多忙／他の出張が多い	26	18.8%	2.7%	2.5%	8.4%
センターの研修に参加していないため	25	18.1%	2.7%	1.4%	—%
個人研修にとどまっている／学校全体の活用になっていない	18	13.0%	4.6%	1.6%	1.7%
学校からセンターまで遠い	9	6.5%	—	—	—

※今回調査で回答数の多いもの上位5項目

センターの研修を活用していない理由については、コロナウイルス感染症の影響や校務多忙が4割を占めた。オンデマンド型やライブ型といった新しい研修形態の周知と理解を図り、研修内容の充実を行っていく。

(4) センターの研修として取り上げてほしい教科・科目に関する調査 (質問8)

【質問8】 貴校の課題を解決するために、総合教育センターの研修として取り上げてほしい教科・科目について以下の項目から選んでください。(複数選択可)

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
国語	152	52.8%	57	38.8%	24	32.9%	3	18.8%	236	45.0%
社会 (地理・歴史、公民含む)	26	9.0%	42	28.6%	33	45.2%	1	6.3%	102	19.5%
算数・数学	165	57.3%	52	35.4%	19	26.0%	3	18.8%	239	45.6%
理科	31	10.8%	44	29.9%	20	27.4%	1	6.3%	96	18.3%
生活	25	8.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	12.5%	27	5.2%
音楽	24	8.3%	24	16.3%	5	6.8%	5	31.3%	58	11.1%
図画工作／美術	26	9.0%	22	15.0%	3	4.1%	5	31.3%	56	10.7%
書道	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	1	0.2%
技術	0	0.0%	29	19.7%	0	0.0%	2	12.5%	31	5.9%
家庭	13	4.5%	30	20.4%	11	15.1%	3	18.8%	57	10.9%
体育／保健体育	41	14.2%	24	16.3%	8	11.0%	4	25.0%	77	14.7%
外国語	59	20.5%	49	33.3%	22	30.1%	1	6.3%	131	25.0%
工業	0	0.0%	0	0.0%	9	12.3%	0	0.0%	9	1.7%
農業	0	0.0%	0	0.0%	3	4.1%	0	0.0%	3	0.6%
商業	0	0.0%	0	0.0%	4	5.5%	0	0.0%	4	0.8%
水産	0	0.0%	0	0.0%	2	2.7%	0	0.0%	2	0.4%
情報	0	0.0%	0	0.0%	42	57.5%	6	37.5%	48	9.2%
福祉	0	0.0%	0	0.0%	3	4.1%	1	6.3%	4	0.8%
特別の教科 道徳	85	29.5%	72	49.0%	0	0.0%	4	25.0%	161	30.7%
総合的な学習の時間	63	21.9%	50	34.0%	0	0.0%	0	0.0%	113	21.6%
その他	36	12.5%	21	14.3%	5	6.8%	5	31.3%	67	12.8%

※上位5項目を色づけ(その他を除く)

小学校・中学校・高等学校においては、前回調査(令和2年度)と同様に主要教科の要望が多かった。特に割合が30%を超えているのは、小学校では、「算数57.3%」、「国語52.8%」、中学校では、「国語38.8%」、「数学35.4%」、「外国語33.3%」、高等学校では、「地理・歴史、公民45.2%」、「国語32.9%」、「外国語30.1%」であった。各校種とも、ICTを活用した授業の在り方や授業実践事例、資質・能力を育む指導と評価の一体化についての要望が挙げられている。

また、道徳教育については、前回調査より要望は少なくなったものの、小学校では「特別の教科道徳29.5%」、中学校では「特別の教科道徳49.0%」、特別支援学校「特別の教科道徳25.0%」と相変わらず要望が多い。道徳教育の進め方とともに、その評価方法についての要望が挙げられている。

今後も学習指導要領の趣旨の周知と理解を図っていけるよう、基本研修及び希望研修の内容を見直ししながら、現場のニーズにあった研修を行っていく。

高等学校「情報 57.5%」の要望があった。情報のプログラミングの指導方法、共通テストを見据えた授業改善の要望が挙げられている。令和7年度の共通テストから出題教科に「情報」が追加されることもあり、関心が高くなっている。

今後も基本研修及び希望研修を通して、学習指導要領の趣旨について理論と実践の両面から具体的に学ぶ研修や、所員研究を生かした実践的な研修を充実させていく。

特別支援学校において、「音楽 31.3%」、「図画工作・美術 31.3%」、「体育・保健体育 25.0%」などの実技教科の要望があった。特別支援教育として個々の実態に合わせた実技指導の在り方に困難さを感じていると思われる。また、各教科等を合わせた指導についての要望も多かった。

これまで同様、基本研修及び希望研指導を通して、指導の在り方やその工夫について実践的に学べる研修を行っていく。

(5) センターの研修として取り上げてほしい研修内容（質問9） [自由記述]

【質問9】「質問8」で選択した教科・科目の研修内容として特に取り上げてほしい内容があれば回答してください。「その他」を選択した場合は、教科・科目の名称を回答してください。

ア 小学校

	回答数	割合	主な回答
国語	152	52.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実について ・思考力を高める授業づくりについて ・表現力を高める指導について ・単元構想のポイント、主体的対話的深い学び ・児童のICT活用と授業づくり
社会	26	9.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について ・ICT機器を活用した授業の在り方について
算数・数学	165	57.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力を高める授業づくりについて ・個別最適な学び ・協働的な学び ・児童のICT活用と授業づくり
理科	31	10.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
生活	25	8.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・単元づくり ・キャリア教育との関連 ・思考ツールの活用法やアイデア
音楽	24	8.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・教科のねらいに即したタブレットPCの効果的な活用方法 ・極小規模における異学年集団での合唱指導 ・授業の中での楽典の扱い方
図画工作／美術	26	9.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた図画工作科の実践 ・造形的な見方・考え方の育成についての効果的な指導・支援の在り方 ・教科のねらいに即したタブレットPCの効果的な活用方法

家庭	13	4.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について ・ICT機器を活用した授業の在り方について
体育／保健体育	41	14.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール運動の指導 ・陸上競技の指導 ・インクルーシブ教育 ・体育科におけるICTの活用
外国語	59	20.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について ・ICT機器を活用した授業の在り方について ・デジタル教科書を活用した担任による指導の実際と評価
特別の教科 道徳	85	29.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳指導のあり方と評価 ・他者意識と自己肯定感を育む道徳教育（授業）の在り方 ・複式、少人数におけるICT活用を含めた指導について
総合的な学習の時間	63	21.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・単元づくり、キャリア教育との関連。 ・思考ツールの活用法やアイデア ・地域資源を有効に活用した指導方法について
その他	36	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・複式指導 ・各教科ICTを効果的に活用した複式の授業の在り方 ・学力向上に関する他校の日々の取組（実践例） ・教科横断的な授業づくりのポイント ・ICTの活用 ・プログラミング教育

イ 中学校

	回答数	割合	主な回答
国語	57	38.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化、協働学習とICTの活用 ・言語活動を通じた思考力・判断力・表現力の育成 ・評価問題の作成について
社会	42	28.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebookの授業における有効活用 ・学力向上にかかわる授業実践の工夫 ・指導と評価の一体化を意識した授業のあり方
算数・数学	52	35.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上にかかわる授業実践の工夫 ・基礎的基本的な知識・技術の定着について ・数学的思考の育成と表現方法の工夫について ・ICTの効果的な活用について
理科	44	29.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化、協働学習とICTの活用 ・評価について ・学力向上にかかわる授業実践の工夫
音楽	24	16.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・和楽器の学習と鑑賞について ・評価問題の作成について ・個別最適化、協働学習とICTの活用
図画工作／美術	22	15.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化、協働学習とICTの活用 ・指導と評価の一体化を意識した授業のあり方

技術	29	19.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を意識した授業のあり方 ・免許外の教員が対応している教科について実践例
家庭	30	20.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・指導パッケージ（年間指導計画、単元指導計画、単位時間の指導計画、ワークシート、評価等） ・個別最適化、協働学習とICTの活用 ・免許外の教員が対応している教科について実践例
体育／保健体育	24	16.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化、協働学習とICTの活用 ・指導と評価の一体化を意識した授業のあり方
外国語	49	33.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語」で行う英語の授業づくり ・パフォーマンステストのあり方 ・個別最適化、協働学習とICTの活用
特別の教科 道徳	72	49.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・評価問題の作成について ・道徳での話し合い活動、どうやって考えを深めるか ・道徳における深い学びとICT活用
総合的な学習の時間	50	34.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・「郷土の先人」の教材化の実際について ・キャリア教育の視点からの総合的な学習の実践について ・各学校の実践例の紹介
その他	21	14.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育 ・生徒指導上の問題解決につながる研修 ・特別支援教育 ・OJTの進め方

ウ 高等学校

	回答数	割合	主な回答
国語	24	32.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考・判断・表現」を高めるICT活用 ・基礎学力向上、学習意欲向上につながる取り組みの実践例 ・「学び直し」の具体的な指導方法
地理歴史・公民	33	45.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット（クロムブック）を活用した授業実践及び教材準備方法 ・新科目「公共」における指導法・実践等
算数・数学	19	26.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを利用した授業の実践例 ・基礎学力向上、学習意欲向上につながる取り組みの実践例 ・文章読解力を高める授業の在り方
理科	20	27.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な実験・実習における留意事項・ヒント等 ・ICTの活用、実践例 ・指導と評価の一体化
音楽	5	6.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でのマスク着用制限下の歌唱の評価について ・ICTの活用、実践例
図画工作／美術	3	4.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の授業についての指導、実践例 ・教科担当が1名しかいない場合は、特に研修の機会が必要
書道	1	1.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担当が1名しかいない場合は、特に研修の機会が必要
家庭	11	15.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育についての指導、実践例 ・被服実技実習の研修、家庭科分野の実験を伴う研修 ・ICTを利用した授業の実践例
体育／保健体育	8	11.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業づくり ・「指導と評価の一体化」に係わる研修
外国語	22	30.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高める授業の在り方 ・基礎学力向上、学習意欲向上につながる取り組みの実践例 ・「学び直し」の具体的な指導方法
工業	9	12.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用、実践例 ・「指導と評価の一体化」に係わる研修
農業	3	4.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ力を醸成するための実践事例
商業	4	5.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携による開かれた授業実践 ・ICTを活用した授業展開
水産	2	2.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・教材としての動画製作 ・民間水産会社や漁家の経営、起業に関する研修
情報	42	57.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング指導 ・大学入学共通テスト対策 ・情報の授業を日常の活用につなげる工夫や事例の紹介
福祉	3	4.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・最新で専門的な内容 ・コロナ等により校外実習が不可となった際の、効果的な校内実習の取り組み
その他	5	6.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・教科横断的な学習（STEAM教育）の実践事例と評価の仕方 ・産業社会と人間

エ 特別支援学校

	回答数	割合	主な回答
国語	3	18.8%	・目標立てと評価の仕方
社会	1	6.3%	・各教科等を合わせた指導の実際
算数・数学	3	18.8%	・目標立てと評価の仕方
理科	1	6.3%	・各教科等を合わせた指導の実際
生活	2	12.5%	・目標立てと評価の仕方 ・各教科等を合わせた指導の実際
音楽	5	31.3%	・知的障がいのある児童生徒の指導につながる内容 ・免許外の教員への研修
図画工作／美術	5	31.3%	・知的障がいのある児童生徒の指導につながる内容 ・免許外の教員への研修
技術	2	12.5%	・免許外の教員への研修
家庭	3	18.8%	・知的障がいのある児童生徒の指導につながる内容 ・免許外の教員への研修
体育／保健体育	4	25.0%	・知的障がいの児童生徒に対するの性教育 ・目標立てと評価の仕方
外国語	1	6.3%	・各教科等を合わせた指導の実際
情報	6	37.5%	・エクセルの研修がよかったので引き続き取り上げてほしい ・免許外の教員への研修
福祉	1	6.3%	なし
特別の教科 道徳	4	25.0%	・特別支援学校の目標設定、評価の仕方など具体的な例を取り上げた研修
その他	5	31.3%	・すべての科目に対して発達障害に対応できる教授法

(6) センターの研修として取り上げて欲しい領域等に関わる調査 (質問 10)

【質問 10】貴校の課題を解決するために、総合教育センターの研修内容として取り上げてほしい領域等について以下の項目から選んでください。(複数選択可)

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
道徳教育	34	11.8%	33	22.4%	3	4.1%	2	12.5%	72	13.7%
特別活動	26	9.0%	18	12.2%	1	1.4%	2	12.5%	47	9.0%
総合的な学習(探究)の時間	31	10.8%	29	19.7%	27	37.0%	5	31.3%	92	17.6%
小学校外国語活動	31	10.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	32	6.1%
キャリア教育	29	10.1%	33	22.4%	16	21.9%	3	18.8%	81	15.5%
特別支援教育	113	39.2%	43	29.3%	17	23.3%	9	56.3%	182	34.7%
自立活動	28	9.7%	11	7.5%	8	11.0%	9	56.3%	56	10.7%
国際理解教育	2	0.7%	3	2.0%	1	1.4%	0	0.0%	6	1.1%
環境教育	1	0.3%	3	2.0%	3	4.1%	0	0.0%	7	1.3%
ボランティア教育	2	0.7%	1	0.7%	1	1.4%	0	0.0%	4	0.8%
情報教育	30	10.4%	18	12.2%	16	21.9%	2	12.5%	66	12.6%
復興教育	33	11.5%	21	14.3%	9	12.3%	4	25.0%	67	12.8%
学校図書館教育	6	2.1%	2	1.4%	2	2.7%	0	0.0%	10	1.9%
健康教育	5	1.7%	0	0.0%	1	1.4%	1	6.3%	7	1.3%
学校安全(生活安全)	3	1.0%	3	2.0%	1	1.4%	1	6.3%	8	1.5%
学校安全(交通安全)	2	0.7%	2	1.4%	1	1.4%	1	6.3%	6	1.1%
学校安全(災害安全)	16	5.6%	14	9.5%	4	5.5%	1	6.3%	35	6.7%
伝統文化教育	1	0.3%	3	2.0%	2	2.7%	0	0.0%	6	1.1%
消費者教育	2	0.7%	2	1.4%	6	8.2%	1	6.3%	11	2.1%
小規模・複式指導	47	16.3%	6	4.1%	1	1.4%	3	18.8%	57	10.9%
学校経営	5	1.7%	9	6.1%	0	0.0%	0	0.0%	14	2.7%
学級・学年経営	46	16.0%	24	16.3%	6	8.2%	1	6.3%	77	14.7%
生徒指導	40	13.9%	27	18.4%	9	12.9%	3	18.8%	79	15.1%
教育相談	61	21.2%	42	28.6%	34	46.6%	8	50.0%	145	27.7%
教育法規	2	0.7%	2	1.4%	3	4.1%	0	0.0%	7	1.3%
校内研修	13	4.5%	13	8.8%	2	2.7%	3	18.8%	31	5.9%
校内研究	17	5.9%	19	12.9%	1	1.4%	4	25.0%	41	7.8%
カリキュラム・マネジメント	55	19.1%	22	15.0%	9	12.3%	6	37.5%	92	17.6%
主権者教育	1	0.3%	2	1.4%	4	5.5%	1	6.3%	8	1.5%
プログラミング教育	66	22.9%	9	6.1%	11	15.1%	1	6.3%	87	16.6%
外国人児童生徒等への日本語教育	6	2.1%	4	2.7%	1	1.4%	0	0.0%	11	2.1%
人権教育	4	1.4%	8	5.4%	3	4.1%	0	0.0%	15	2.9%
ICT活用(授業)	194	67.4%	106	72.1%	48	65.8%	8	50.0%	356	67.9%
ICT活用(校務)	100	34.7%	62	42.2%	35	47.9%	6	37.5%	203	38.7%
「社会に開かれた教育課程」の実践	20	6.9%	16	10.9%	15	20.5%	4	25.0%	55	10.5%
その他	6	2.1%	7	4.8%	1	1.4%	3	17.6%	15	2.9%

※上位5項目を色づけ(その他を除く)

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に共通して要望が多かったのは、「授業におけるICT活用」であった(全体67.9%、小学校72.1%、中学校65.8%、高等学校50.0%)。そして次に多かったのは、「公務におけるICT活用」であった(全体39.2%、小学校29.3%、中学校23.3%、高等学校56.%)。県内の学校にICT環境の整備が整った現在、一人一台端末や公務支援システムの利活用に対しての要望があることを受け止め、総合教育センターでは研修の充実を今後も図っていく。

上記内容の他に全校種において回答数が多かったものは、「特別支援教育」(全体34.7%)、「教育相談」(全体27.7%)であった。「教育相談」においては、前回調査の全体14.1%から二倍程度割合が高くなった。教育関係者が児童生徒の個々のニーズを理解し、それに応じて支援するための戦略やアプローチを学ぶことや効果的なコミュニケーションスキルを向上させること、教育関係施設との連携の重要性を理解し、効果的な協働関係を築くための方法を学ぶ研修を今後も継続していく。

小学校において前回調査からの割合が高かったのは、「復興教育」であった。前回調査の4.3%から11.5%へと上がった。「いわての復興教育」プログラムに基づく教育活動の推進するための研修への要望が高まっている。一方で、「プログラミング教育」については、前回調査の47.5%から22.9%に下がった。これは、プログラミング教育の始まった時期から数年経ち、各学校における指導体制が確立してきた結果だと考える。

高等学校において前回調査からの割合が高かったのは、「情報教育」であった。前回調査の9.2%から21.9%になった。高等学校では「情報Ⅰ」の必修化に伴い、生徒たちが情報社会において主体的に活動する能力や情報リテラシーの向上が求められていることが情報教育の推進に対する要望が高まった理由の一つに挙げられる。

今回、新設された調査項目を見ると、特別支援学校の「社会に開かれた教育課程」が25.0%と高い。社会に開かれた教育課程では、異なる特性や障がいをもつ生徒たちが、自分らしく学び、社会参加できるようにするための方法やアプローチが必要であり、多様な生徒への教育提供方法や適切な支援策について学ぶ研修が必要となる。

(7) その他の項目に関わる調査(質問11) [自由記述]

【質問11】「質問10」で選択した領域の研修内容として具体的にどのような内容を取り上げてほしいですか。「その他」を選択している場合には教科・科目の名称もお書きください。

ア 小学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	34	11.8%	・多面的、多角的な道徳の価値のとらえ方 ・対話を位置付けた指導過程 ・規範意識を高める指導の在り方
特別活動	26	9.0%	なし
総合的な学習の時間	31	10.8%	・探究的な見方・考え方を働かせる学習活動の具体について ・課題のを見つけさせ方、探究のさせ方。
小学校外国語活動	31	10.8%	なし
キャリア教育	29	10.1%	・キャリア教育とキャリアパスポートが連動した実践の紹介
特別支援教育	113	39.2%	・特別な支援が必要な児童や保護者への対応 ・校内における特別支援体制の共有の仕方 ・通常学級における支援を要する児童への支援方法

自立活動	28	9.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい種に応じた自立活動のあり方 ・自立活動における個人の見取りとそれを活かした授業づくり
国際理解教育	2	0.7%	なし
環境教育	1	0.3%	なし
ボランティア教育	2	0.7%	なし
情報教育	30	10.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の安全な活用について ・具体的な情報教育・情報モラルの指導 ・情報モラルを高める指導の在り方
復興教育	33	11.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・現在進められている復興教育の取り組み ・内陸部の地域だからこそできる復興教育 ・若い世代の教員が子どもたちに震災や復興についてつないでいくための復興教育
学校図書館教育	6	2.1%	なし
健康教育	5	1.7%	なし
学校安全（生活安全）	3	1.0%	なし
学校安全（交通安全）	2	0.7%	なし
学校安全（災害安全）	16	5.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携 ・災害対応 ・避難訓練に結び付ける災害安全の指導方法及び復興副読本の活用
伝統文化教育	1	0.3%	なし
消費者教育	2	0.7%	なし
小規模・複式指導	47	16.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な指導のあり方について学びたい ・複式指導の実践例（自主学習の時の学ばせ方） ・複式学級におけるICTの活用法について
学校経営	5	1.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用を推進する体制づくり ・カリキュラムマネジメント
学級・学年経営	46	16.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルトレーニング ・校内体制づくりのポイント ・不登校・登校不安の予防的関わり ・どの子ども安心できる学級経営の肝 ・1年間を見通した学級集団作り、不登校やいじめを未然に防ぐ人間関係づくり
生徒指導	40	13.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学習環境整えるための生徒指導について ・具体的事例に基づく対応の在り方 ・校内体制づくりのポイント
教育相談	61	21.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・心理検査の実施と分析方法 ・児童の特性や精神疾患等の状態に応じた指導方法の在り方 ・教育相談における保護者対応の基本
教育法規	2	0.7%	なし
校内研修	13	4.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題の設定の仕方と指導方法 ・活発な校内研修にするための手立て

校内研究	17	5.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究（授業研究会）の効果的な進め方について ・活発な校内研究にするための手立て
カリキュラム・マネジメント	55	19.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作り方の実際 ・防災学習を推進するためのカリキュラムマネジメント ・教科横断的なカリキュラムマネジメントの実践例や具体例
主権者教育	1	0.3%	なし
プログラミング教育	66	22.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育の実践例 ・マイクロビットの活用 ・発達段階に応じた指導、ソフトの活用
外国人児童生徒等への日本語教育	6	2.1%	・外国から来た児童への「ことばの教室」での指導法
人権教育	4	1.4%	なし
I C T 活用（授業）	194	67.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科における効果的な I C T の活用方法 ・タブレットを使っての協働的な学び、個別最適な学びの推進 ・授業での活用方法、コンテンツによる違い、デジタル教科書の活用法 ・I C T を活用した学習履歴の可視化（児童が自らの思考過程や学習の成果を振り返る）
I C T 活用（校務）	100	34.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・校務の効率化につながるネットワークの構築について ・合理的かつ円滑な校務の在り方 ・会議、集会、公務などで効率的に（時短）すすめられる I C T 活用例 ・職員のリテラシー向上
「社会に開かれた教育課程」の実践	20	6.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とともに作る学校づくり ・コミュニティスクールについて
その他	6	2.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でのメディアコントロールを推奨する手立て ・複式指導

イ 中学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	33	22.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・年間カリキュラムの作成 ・I C T の活用、評価への活用 ・授業改善全般
特別活動	18	12.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・個に対応できる取り組み方 ・年間指導計画 ・自己肯定感を伸ばすために学級・学年でできる活動
総合的な探究の時間	29	19.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を題材とした探究的活動の在り方 ・伝統芸能を地域に根づかせ、発展させていくにはどうあればよいか。 ・地域と連携・協働して充実させる総合的な学習
小学校外国語活動	0	0.0%	なし

キャリア教育	33	22.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート（小中一貫の視点を含む）の取り組みの実際 ・働くことの意義ややりがいについて学ばせる方法について ・特別支援の生徒のキャリア教育の在り方
特別支援教育	43	29.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級における支援が必要な児童生徒への効果的な支援のあり方 ・特別な支援を要する生徒を理解するための基礎的内容と生徒への対応の仕方 ・知的障がいにおける授業展開例
自立活動	11	7.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な計画立案のしかた及び具体例 ・自立活動とICT（具体的な実践例の紹介）
国際理解教育	3	2.0%	なし
環境教育	3	2.0%	なし
ボランティア教育	1	0.7%	なし
情報教育	18	12.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの授業
復興教育	21	14.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・復興教育の今後の方向性 ・震災を知らない世代とどう向き合うか ・学校安全（災害）地域の実態に応じた危機管理マニュアルの見直しと児童生徒への指導
学校図書館教育	2	1.4%	なし
健康教育	0	0.0%	なし
学校安全（生活安全）	3	2.0%	なし
学校安全（交通安全）	2	1.4%	なし
学校安全（災害安全）	14	9.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災に係る教育実践事例（土砂災害、火山防災等） ・防災教育 ・学校安全（災害）地域の実態に応じた危機管理マニュアルの見直しと児童生徒への指導
伝統文化教育	3	2.0%	なし
消費者教育	2	1.4%	なし
小規模・複式指導	6	4.1%	なし
学校経営	9	6.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の人材育成について ・生徒指導困難校改善のための学校作り
学級・学年経営	24	16.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題を含む生徒指導の視点からの学級づくり ・保護者対応についての研修 ・学級経営について実践的な内容の研修
生徒指導	27	18.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒理解について ・新しい『生徒指導提要』のポイントについて ・メディア使用時間に関する指導はどのような進め方が効果的か
教育相談	42	28.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、不適応生徒の未然防止や初期対応について ・生徒への対応の仕方や事例からみる教育相談の方法と実践練習 ・不登校生徒の支援（学習者用端末を活用した学習指導を含む）

教育法規	2	1.4%	なし
校内研修	13	8.8%	・教育の情報化の推進に係る研修
校内研究	19	12.9%	・研究主任としての役割と効果的な校内研究の進め方
カリキュラム・マネジメント	22	15.0%	・学校のグランドデザインの考え方やCSとの関連について
主権者教育	2	1.4%	なし
プログラミング教育	9	6.1%	・小中高のプログラム教育で扱う教材例
外国人児童生徒等への日本語教育	4	2.7%	・教科指導や日本語教育の具体的な方法
人権教育	8	5.4%	・生徒指導困難校改善のための学校作り
ICT活用（授業）	106	72.1%	・各教科における効果的なICTの活用方法 ・ICT活用（効果的なペア・グループ活動 課題設定や振り返り場面での活用 家庭学習の成果がチェック・評価される場の設定） ・ロイロノートなど、授業での効果的な使い方
ICT活用（校務）	62	42.2%	・職員会議等でのペーパーレス化 ・校務支援について県統一のものになるという情報があるが、統一になるのであれば、その使用の仕方について研修を計画してほしい。 ・出席簿や要録について
「社会に開かれた教育課程」の実践	16	10.9%	・コミュニティースクールの実践 ・持続可能なカリキュラムと地域連携の在り方について
その他	7	4.8%	・包括的セクシャリティ教育 ・現状より増やすことを望まない

ウ 高等学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	3	4.1%	・人権問題（ジェンダー関連） ・情報モラル、セキュリティ
特別活動	1	1.4%	なし
総合的な探究の時間	27	37.0%	・各校の事例をシェアする機会 ・問いの立て方・発表の手法について ・キャリア教育や起業的マインドの育成法
小学校外国語活動	0	0.0%	なし
キャリア教育	16	21.9%	・3年間を見据えた計画の立て方
特別支援教育	17	23.3%	・通級による指導の研修 ・普通高校での特別な支援を必要とする生徒の対応 ・インクルーシブ教育。
自立活動	8	11.0%	・通級による指導の研修
国際理解教育	1	1.4%	なし
環境教育	3	4.1%	・環境に関する探究活動について
ボランティア教育	1	1.4%	なし
情報教育	16	21.9%	・情報モラル、セキュリティ
復興教育	9	12.3%	なし

学校図書館教育	2	2.7%	なし
健康教育	1	1.4%	なし
学校安全（生活安全）	1	1.4%	なし
学校安全（交通安全）	1	1.4%	なし
学校安全（災害安全）	4	5.5%	なし
伝統文化教育	2	2.7%	・地域の伝統文化を学びに落とし込むヒントや事例を取り上げてほしい
消費者教育	6	8.2%	・成人年齢引き下げに伴う金融、経済に係る指導
小規模・複式指導	1	1.4%	なし
学校経営	0	0.0%	なし
学級・学年経営	6	8.2%	・主担当だけでなく問題を抱えず、複数で対応を図る方法や仕掛けの実践例
生徒指導	9	12.9%	・発達障害が疑われる生徒とその保護者に対する指導について ・アンガーマネジメント
教育相談	34	46.6%	・不登校、登校しぶりなどの不適應生徒への対応のしかた ・様々な特性を持つ生徒たちが、自己肯定感をもって社会に参加できるようになるための取り組み、あるいはケーススタディ
教育法規	3	4.1%	・教育関係裁判の事例と判例について
校内研修	2	2.7%	なし
校内研究	1	1.4%	なし
カリキュラム・マネジメント	9	12.3%	・探究活動を外部団体と協働する場合のカリキュラム作成について ・地域や外部機関との連携について
主権者教育	4	5.5%	なし
プログラミング教育	11	15.1%	・小中学校と高校のプログラミング教育の接続について
外国人児童生徒等への日本語教育	1	1.4%	なし
人権教育	3	4.1%	なし
ICT活用（授業）	48	65.8%	・生徒個人が保有するスマートフォンを活用できる授業 ・ICT機器を活用した授業改善の実践について ・Teams や Forms の活用方法
ICT活用（校務）	35	47.9%	・ICTを活用した校務効率化の実践例
「社会に開かれた教育課程」の実践	15	20.5%	・地域や外部機関との連携について ・地域連携の事例
その他	1	1.4%	なし

エ 特別支援学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	2	12.5%	なし
特別活動	2	12.5%	なし
総合的な学習の時間	5	31.3%	・地域と関わった実践事例
小学校外国語活動	1	6.3%	なし

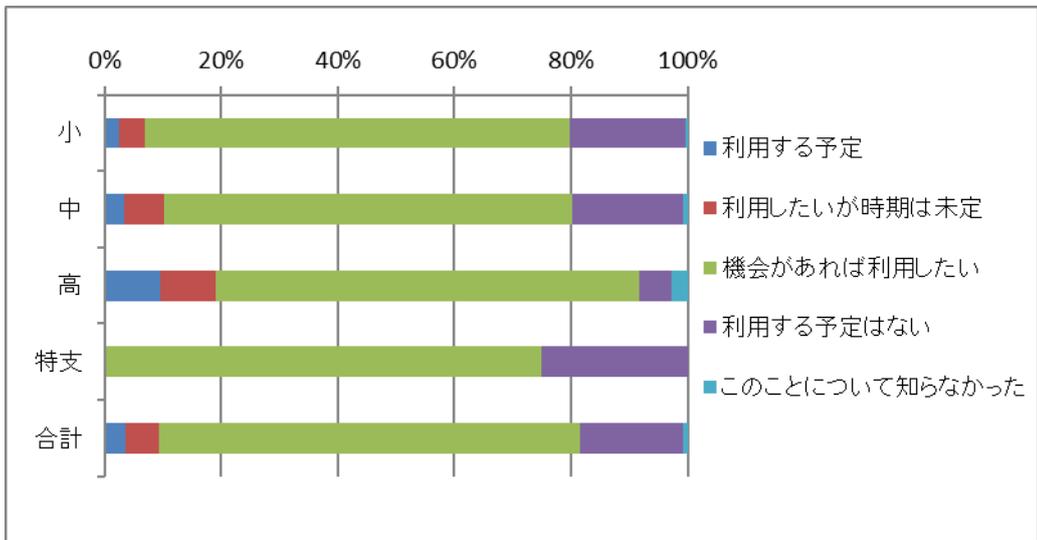
キャリア教育	3	18.8%	なし
特別支援教育	9	56.3%	・すべての科目に対して発達障害に対応できる教授法
自立活動	9	56.3%	・重複障がいの子どもの実態把握 ・各教科や合わせた指導の中で自立活動の内容を扱う際のポイント
国際理解教育	0	0.0%	なし
環境教育	0	0.0%	なし
ボランティア教育	0	0.0%	なし
情報教育	2	12.5%	なし
復興教育	4	25.0%	なし
学校図書館教育	0	0.0%	なし
健康教育	1	6.3%	なし
学校安全（生活安全）	1	6.3%	なし
学校安全（交通安全）	1	6.3%	なし
学校安全（災害安全）	1	6.3%	なし
伝統文化教育	0	0.0%	なし
消費者教育	1	6.3%	なし
小規模・複式指導	3	18.8%	なし
学校経営	0	0.0%	なし
学級・学年経営	1	6.3%	なし
生徒指導	3	18.8%	なし
教育相談	8	50.0%	・保護者との関わり方、カウンセリングマインド
教育法規	0	0.0%	なし
校内研修	3	18.8%	・校内研修、研究の進め方、実践例
校内研究	4	25.0%	・研究の進め方、実践例
カリキュラム・マネジメント	6	37.5%	・具体的な実践例・進め方 ・日々の授業づくりと関連付けたカリキュラム・マネジメント
主権者教育	1	6.3%	なし
プログラミング教育	1	6.3%	なし
外国人児童生徒等への日本語教育	0	0.0%	なし
人権教育	0	0.0%	なし
I C T活用（授業）	8	50.0%	・授業での活用実践例
I C T活用（校務）	6	37.5%	・効率的な業務の推進
「社会に開かれた教育課程」の実践	4	25.0%	・「社会に開かれた教育課程」の実践について、具体的な進め方
その他	3	17.6%	なし

3 支援業務推進に関わる調査

(1) 教育相談に関わる調査（質問12）

【質問12】 総合教育センターでは、幼児児童生徒、保護者並びに教職員等に対して、学校生活や特別な支援に関する教育相談を行っています（電話相談、来所相談、訪問相談）。今後、この教育相談を利用する予定がありますか。

	小	中	高	特支	合計		小	中	高	特支	合計	R2	H30	H28
利用する予定	7	5	7	0	19	利用する予定	2.4%	3.4%	9.6%	0.0%	3.6%	3.1%	4.0%	3.1%
利用したいが時期は未定	13	10	7	0	30	利用したいが時期は未定	4.5%	6.8%	9.6%	0.0%	5.7%	4.4%	4.1%	4.4%
機会があれば利用したい	210	103	53	12	378	機会があれば利用したい	72.9%	70.1%	72.6%	75.0%	72.1%	66.8%	64.0%	63.8%
利用する予定はない	57	28	4	4	93	利用する予定はない	19.8%	19.0%	5.5%	25.0%	17.7%	25.7%	27.9%	28.7%
このことについて知らなかった	1	1	2	0	4	このことについて知らなかった	0.3%	0.7%	2.7%	0.0%	0.8%			

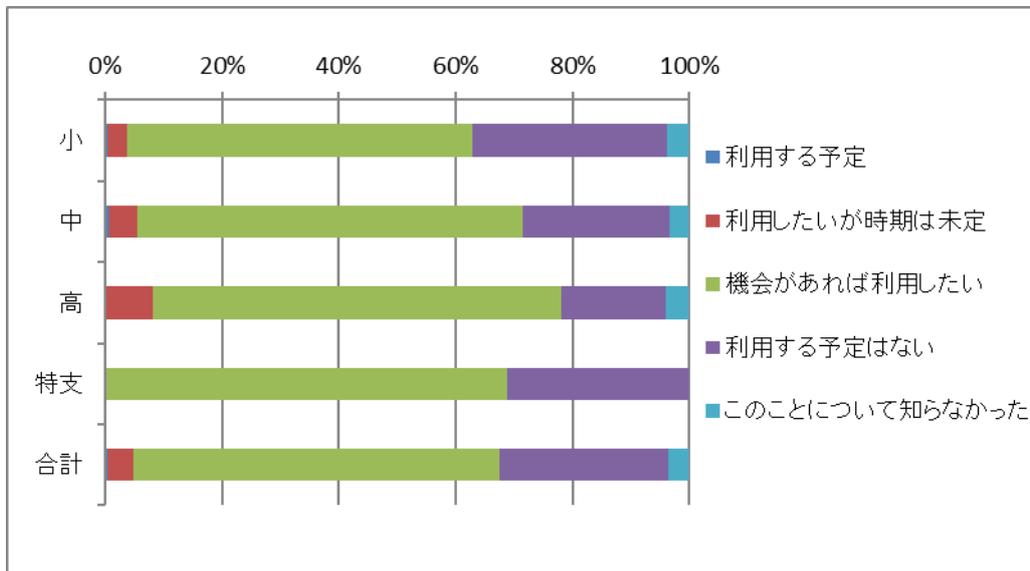


『教育相談』の利用について、いずれの校種においても、「機会があれば利用したい」〔小（72.9%）・中（70.1%）・高（72.6%）・特（75.0%）〕が多かった。特に、高等学校において「利用する予定」「利用したいが時期は未定」「機会があれば利用したい」で合わせて91.8%となっており、特別な支援を必要とする生徒への対応の必要性が高まっていることがわかる。今後も相談ニーズに対応できるような支援体制を継続していく。

(2) どうよび相談に関する調査 (質問 13)

【質問 13】 総合教育センターでは、「質問 12」の教育相談のうち、来所相談を土曜日にも行っています。今後、このどうよび相談を利用する予定がありますか。

	小	中	高	特支	合計		小	中	高	特支	合計	R2	H30	H28
利用する予定	1	1	0	0	2	利用する予定	0.3%	0.7%	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%	4.0%	0.3%
利用したいが時期は未定	10	7	6	0	23	利用したいが時期は未定	3.5%	4.8%	8.2%	0.0%	4.4%	2.7%	1.8%	1.9%
機会があれば利用したい	170	97	51	11	329	機会があれば利用したい	59.0%	66.0%	69.9%	68.8%	62.8%	59.7%	57.8%	57.7%
利用する予定はない	96	37	13	5	151	利用する予定はない	33.3%	25.2%	17.8%	31.3%	28.8%	37.2%	39.6%	40.1%
このことについて知らなかった	11	5	3	0	19	このことについて知らなかった	3.8%	3.4%	4.1%	0.0%	3.6%			



『どうよび相談』の利用について、「機会があれば利用したい」〔小 (59.0%) ・中 (66.0%) ・高 (69.9%) ・特 (68.8%) 〕である。今後も相談ニーズに対応できる支援体制を継続していく。

4 研究業務推進に関わる調査

(1) センターの研究の活用状況に関する調査（質問14）

【質問14】総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。令和4年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ててみたいものを選んでください。（複数選択可）

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①ICTを活用した学習活動の充実に関する研究【総論】 ー教員のICT活用指導力の充実に資する実践事例集の作成を通してー（2年研究2年次）	262	91.0%	117	79.6%	49	67.1%	9	56.3%	437	83.4%
②小学校 第6学年 社会科 幕府の政治と人々の暮らし 我が国の歴史上の事象について、課題を追及したり解決したりする活動の充実に 関する実践	64	22.2%	8	5.4%	0	0.0%	1	6.3%	73	13.9%
③ 中学校 第2学年 理科 【第2分野】(4)気象とその変化「気象とその変化」について、気象観測データを基に、分析・解釈する学習の充実に 関する実践	0	0.0%	41	27.9%	0	0.0%	1	6.3%	42	8.0%
④中学校 第3学年 理科【第1分野】(6)化学変化とイオン 電極における変化を、イオンのモデルと関連付けて微視的に捉える学習の充実に 関する実践	0	0.0%	45	30.6%	1	1.4%	1	6.3%	47	9.0%
⑤中学校外国語科における領域統合型の言語活動の充実に 関する研究ー領域と領域をつなぐツールとして、ICTを活用することを通してー	2	0.7%	59	40.1%	3	4.1%	2	12.5%	66	12.6%
⑥高等学校 地理歴史科 歴史総合 現代的な諸課題につながる近代化の歴史的 事象への多面的・多角的考察の充実に関する実践	0	0.0%	5	3.4%	22	30.1%	1	6.3%	28	5.3%
⑦ 高等学校 理科 化学基礎 3 物質の変化とその利用 ア物質と化学反応式 データの分析・解釈における考察・推論の充実に 関する実践	0	0.0%	2	1.4%	17	23.3%	0	0.0%	19	3.6%
⑧高等学校 家庭科 家庭基礎 B衣食住の生活の自立と設計(3)住生活と住環境 ライフ ステージに応じた住居の機能性に配慮した学習の充実に 関する実践	0	0.0%	1	0.7%	15	20.5%	1	6.3%	17	3.2%
⑨高等学校 工業科 工業情報数理(3)プログラミングと工業に関する事象の数理処理 ウ 数理処理 事象をモデル化してシミュレーションする数理処理の学習に 関する実践	0	0.0%	2	1.4%	10	13.7%	0	0.0%	12	2.3%
⑩小学校 LD等通級指導教室 自立活動 4環境の把握等 自分の感覚や認知の特性について理解し、自分の得意な方法で、読むことの困難を改善 することに関する実践	123	42.7%	6	4.1%	3	4.1%	5	31.3%	137	26.1%

⑪ 小学校 知的障がい特別支援学級 国語科 算数科 知的障がいのある児童の学習において、思考の整理を促し、表現する活動の充実に関する実践	139	48.3%	6	4.1%	0	0.0%	6	37.5%	151	28.8%
⑫ 中学校特別支援学級における将来の自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実に関する研究－キャリア発達に応じた授業実践資料の活用を通して－	5	1.7%	71	48.3%	5	6.8%	9	56.3%	90	17.2%
⑬ 特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究－自立活動指導資料(肢体不自由)の作成を通して－	23	8.0%	14	9.5%	4	5.5%	14	87.5%	55	10.5%
該当なし	7	2.4%	13	8.8%	12	16.4%	0	0.0%	32	6.1%

※上位3項目を色づけ

教育活動の充実に役立った研究として、小・中・高等学校共通して、『ICTを活用した学習活動の充実に関する研究【総論】－教員のICT活用指導力の充実に資する実践事例集の作成を通して－（2年研究2年次）』が挙げられた（小91.0%、中79.6%、高67.1%）。

学習指導要領では、情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力として位置付けられ、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に関して、各教科等の指導に当たって配慮する事項として、「情報技術を適切に活用した学習活動の充実を図る」ことが挙げられた。本研究では、実践事例集の作成を通して、「ICTを活用した学習活動の充実」と「教員のICT活用指導力の充実」の在り方について、その一端を明らかにした。教員のICT活用指導力を充実させ、児童生徒の資質・能力の育成に資することを目的としており、ICTを活用した授業を構想する際に、実践事例集とともに参考にしてもらうことができるため、今後も普及を図りたい。

特別支援学校においては、『特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究－自立活動指導資料（肢体不自由）の作成を通して－』が挙げられた（87.5%）。

肢体不自由特別支援学校では、これまで培われてきた知識や技術の継承、専門性の維持向上が課題となっている。そこで、本研究で作成した「自立活動指導資料」を活用することで、教員の専門性の向上と指導の充実を目指している。指導に困難さを抱えている教員にとって、本研究は有意義なものであった考える。

小学校においては、『小学校 知的障がい特別支援学級 知的障がいのある児童の学習において、思考の整理を促し、表現する活動の充実に関する実践』及び『小学校 LD等通級指導教室 自分の感覚や認知の特性について理解し、自分の得意な方法で読むことの困難を改善することに関する実践』が教育活動の充実に役立ったと思うものとして挙げられている（42.7%、48.3%）。

特別支援教育におけるICTを活用した授業実践が示されており、小学校だけではなく、特別支援学校からのニーズも高い。

中学校においては、『中学校特別支援学級における将来の自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実に関する研究－キャリア発達に応じた授業実践資料の活用を通して－』が挙げられている（48.3%）。

障がいのある生徒については、一人一人の子供の障がいの状態や発達の段階に応じた指導が求められており、キャリア教育においても、個々の生徒のキャリア発達に応じた具体的な目標や支援の手立てを考える必要があり、本研究では、中学校知的障がい特別支援学級での取組を例にキャリア教育の充実に向け、年間指導計画の整理、授業実践資料の作成を視点を研究を進めた。

小・中・高等学校においては、それぞれの該当校種のICT活用実践事例として示された研究成果物が教育活動の充実に役立ったと思うものとして挙げられている。

(2) センターの研究の活用状況に関する調査 (質問 15)

【質問 15】 総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。令和3年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ったと思うものを選んでください。(複数選択可)

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①ICTを活用した学習活動の充実に関する研究－教員のICT活用指導力の充実に資する実践事例集の作成を通して－(2年研究1年次)	178	61.8%	83	56.5%	34	46.6%	7	43.8%	302	57.6%
②小学校 第5学年 理科「流れる水のはたらき」問題解決の過程において児童及び教師が情報を適切に活用し理科の学習の充実に資することに関する実践	46	16.0%	2	1.4%	0	0.0%	1	6.3%	49	9.4%
③ 小学校 第6学年 理科「植物のからだのはたらき」問題解決の過程において児童及び教師が情報を適切に活用し理科の学習の充実に資することに関する実践	40	13.9%	1	0.7%	0	0.0%	1	6.3%	42	8.0%
④ 小学校 第5学年 音楽科「日本の音階を使って、旋律を反復させたり、変化させたりして、まとまりのある旋律をつくろう」全体のまとまりを意識し、思いや意図をもって音楽をつくる活動の充実に関する実践	26	9.0%	2	1.4%	0	0.0%	1	6.3%	29	5.5%
⑤中学校 第2学年 国語科「二つの文章を比較し、筆者の表現の効果について考えよう」複数の文章を比較しながら読むことを通して論理的に考える学習の充実に関する実践	0	0.0%	39	26.5%	0	0.0%	1	6.3%	40	7.6%
⑥中学校 第1学年 技術・家庭科[家庭分野]B衣食住の生活 住生活 住生活の課題を解決する学習の充実に関する実践	0	0.0%	27	18.4%	0	0.0%	1	6.3%	28	5.3%
⑦ 高等学校 第2学年 物理基礎(2)様々な物理現象とエネルギーの利用 イ 波 探究の過程において仮説を立て、検証する学習の充実に資することに関する実践	0	0.0%	0	0.0%	14	19.2%	1	6.3%	15	2.9%

⑧ 高等学校 第2学年 生物基礎(2)生物の体内環境の維持 ア 生物の体内環境探究の過程において資料を適切に活用し理科の学習の充実を図ることに関する実践	0	0.0%	0	0.0%	13	17.8%	1	6.3%	14	2.7%
⑨ 高等学校 第1学年 商業科 情報処理(3)情報の集計と分析 ビジネスに関わる表とグラフを検討することで、課題を発見、解決する学習の充実に関する実践	0	0.0%	0	0.0%	5	6.8%	0	0.0%	5	1.0%
⑩ 特別支援学校における図画工作科・美術科の授業づくりに関する研究－文化芸術活動の充実に向けて	5	1.7%	6	4.1%	1	1.4%	9	56.3%	21	4.0%
⑪ 高等学校公民科「公共」における思考力、判断力、表現力等を育む授業の在り方に関する研究－大項目Bの単元構想の工夫と学習活動の充実を通して－	0	0.0%	2	1.4%	19	26.0%	1	6.3%	22	4.2%
⑫ 特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究－自立活動指導資料(聴覚障がい)の作成を通して－	23	8.0%	6	4.1%	6	8.2%	9	56.3%	44	8.4%
該当なし	89	30.9%	44	29.9%	20	27.4%	1	6.3%	154	29.4%

※上位3項目を色づけ(該当なしを除く)

教育活動の充実に役立つ研究として、小・中・高等学校とも、『ICTを活用した学習活動の充実に関する研究【総論】－教員のICT活用指導力の充実に資する実践事例集の作成を通して－(2年研究1年次)』が挙げられた(小61.8%、中56.5%、高46.6%)。

本研究では、これまで公表されている豊富な実践を学習場面ごとに抽出・分類し、研究協力校において、実践・実証した事例による実践事例集を作成し、授業改善につなげることを目指した。令和4年度の研究とともに今後も周知を図っていく。

特別支援学校においては、『特別支援学校における図画工作科・美術科の授業づくりに関する研究－文化芸術活動の充実に向けて－』及び『特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究－自立活動指導資料(聴覚障がい)の作成を通して－』を挙げられた(56.3%、56.3%)。

美術の側面からの文化芸術活動に向けた取組の一つとして、知的障がいのある児童生徒の図画工作・美術科における、資質・能力の育成に向けた授業づくりの一例を示した。また、聴覚障がい教育における教育の専門性の継承と向上が課題となっており、本研究ではその課題の改善のため、自立活動指導資料を作成するなど三つの手立てを講じて、研究を進めた。

小・中・高等学校においては、それぞれの該当校種のICT活用実践事例として示された研究成果物が教育活動の充実に役立つと思うものとして挙げられている。

(3) センターの研究の活用状況に関する調査（質問16）

【質問16】 総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。令和2年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ったと思うものを選んでください。（複数選択可）

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①児童が造形的な活動を思い付いたり、表現したいことを見付けたりする学習指導に関する研究－指導の手立てを明確にする題材構想シートの活用を通して－	42	14.6%	5	3.4%	0	0.0%	2	12.5%	49	9.4%
②新科目「歴史総合」における歴史的な見方・考え方を働かせる学習指導に関する研究－生徒が問いを表現し、資料を活用して追究する授業の在り方について－	2	0.7%	5	3.4%	18	24.7%	1	6.3%	26	5.0%
③「エネルギーを柱とする領域」の基本的な概念を段階的に身に付けていく指導の在り方－音の性質について規則性や関係性を児童生徒が見いだしたり、捉えたりする授業づくりを通して－	4	1.4%	11	7.5%	5	6.8%	0	0.0%	20	3.8%
④高等学校共通教科情報科「情報Ⅰ」における情報活用能力を育成する学習指導の在り方に関する研究－プログラミングによって問題を解決する活動を通して－	2	0.7%	2	1.4%	36	49.3%	1	6.3%	41	7.8%
⑤「共に学び、共に育つ教育」の充実に向けた授業づくりに関する研究－小学校通常の学級と特別支援学級における体育及びパラリンピックスポーツの体験を通して－	37	12.8%	2	1.4%	0	0.0%	1	6.3%	40	7.6%
⑥中学校理科における、生徒が見通しをもって観察、実験を行う授業の在り方に関する研究－自らの考えを基に「課題設定」、「仮説設定」、「検証計画の立案」に取り組むことに着目した指導の充実を通して－	0	0.0%	41	27.9%	2	2.7%	0	0.0%	43	8.2%
⑦自閉症・情緒障がい特別支援学級における教育課程の適切な実施に関する研究－教育活動における自立活動の効果的な取組を通して－	91	31.6%	46	31.3%	15	20.5%	11	68.8%	163	31.1%
⑧特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実にに関する研究－自立活動指導資料(視覚障がい)の作成を通して	14	4.9%	9	6.1%	3	4.1%	8	50.0%	34	6.5%
該当なし	151	52.4%	66	44.9%	26	35.6%	3	18.8%	246	46.9%

※上位3項目を色づけ（該当なしを除く）

小・中・高等学校のいずれの校種において教育活動の充実に役立ったものとして、『自閉症・情緒障がい特別支援学級における教育課程の適切な実施に関する研究－教育活動における自立活動の効果的な取組を通して－』が挙げられた（小 31.6%、中 31.3%、高 20.5%、特別支援 68.8%）。

小・中学校において教育活動の充実に役立ったものとして、『児童が造形的な活動を思い付いたり、表したいことを見付けたりする学習指導に関する研究－指導の手立てを明確にする題材構想シートの活用を通して』が挙げられた（小 12.8%、中 6.3%）。

高等学校において教育活動の充実に役立ったものとして、『高等学校共通教科情報科「情報Ⅰ」における情報活用能力を育成する学習指導の在り方に関する研究－プログラミングによって問題を解決する活動を通して－』が挙げられた（高 49.3%）。

特別支援学校において教育活動の充実に役立ったものとして、上記1に加えて、『特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究－自立活動指導資料（視覚障がい）の作成を通して－』が挙げられた（特別支援 50.0%）。

どの研究においても、自校と同じ校種の研究内容への評価が集中しているが、学習活動を充実したものにしていけるためには、校種や教科・科目を越えて、実践事例を知ることも重要である。今後は現場のニーズを踏まえた研究を行うことに加えて、より一層、研究成果の周知と普及を図っていく。

（４）研究成果物の情報入手方法に関する調査（質問 17）

【質問 17】 「質問 14～16」で回答した研究成果物を、どのような方法で知りましたか。以下の項目から、知った方法として最も多かったものを一つ選んでください。

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
岩手県教育研究発表会	71	24.7%	38	25.9%	15	20.5%	8	50.0%	132	25.2%
提案授業	0	0.0%	1	0.7%	2	2.7%	0	0.0%	3	0.6%
教育研究岩手	22	7.6%	17	11.6%	5	6.8%	1	6.3%	45	8.6%
センターWebページ	130	45.1%	64	43.5%	36	49.3%	3	18.8%	233	44.5%
研修資料	9	3.1%	2	1.4%	6	8.2%	2	12.5%	19	3.6%
センターのメールマガジン	35	12.2%	17	11.6%	0	0.0%	0	0.0%	52	9.9%
研究紹介リーフレット	5	1.7%	2	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	7	1.3%
他者からの紹介	2	0.7%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	3	0.6%
その他	4	1.4%	1	0.7%	2	2.7%	1	6.3%	8	1.5%
このような研究が行われていたことを知らなかった	10	3.5%	5	3.4%	6	8.2%	1	6.3%	22	4.2%

研究成果物の情報の入手方法については、小学校、中学校、高等学校で「センターWeb ページ」の割合が最も高く（小 45.1%、中 43.5%、高 49.3%）、全体でも 44.5%と半数近くを占めている。特別支援学校では、「岩手県教育研究発表会」の割合が最も高く（50.0%）、次が「センターWeb ページ」（18.8%）となっている。

全体として、「センターWeb ページ」と「岩手県教育研究発表会」で約 7 割（69.7%）を占めており、研究成果物の情報の主な入手方法となっている。

その他の研究成果物の情報の入手方法については、小学校、中学校ともに第 3 位が「センターのメールマガジン」（小 12.2%、中 11.6%）であり、中学校では「教育研究岩手」（11.6%）も同程度の割合となっている。高等学校と特別支援学校では、「センターのメールマガジン」という回答がなく（0%）、「教育研究岩手」（高 6.8%、特 8.3%）や「研修資料」（高 8.2%、特 12.5%）に一定の割合がある。

「ICTを活用した学習活動の充実」を挙げた学校が多くみられた。特に小・中学校では、回答した学校の4分の1を占めた（小43件、中27件、高5件、特別支援1件）。内容としては、教科指導におけるICT機器や学習支援ソフト、デジタル教科書等の活用事例を期待する声が多かった。また、ICTによる「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」の促進など、ICTを活用して生徒がどのように学び、何ができるようになるかに着目した研究を期待する声も散見された。

「個別最適な学び」や「協働的な学び」について、あるいは「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための手立てについて（小10件、中9件）。

通常学級における支援が必要な児童生徒、不登校傾向の児童生徒への指導のあり方の具体的事例（小18件、中21件、高10件）。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方。「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料や文献を読んでも、難しく理解できない、という声があった。

「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」に関連して、それらを中核にしたカリキュラム・マネジメントの編成、地域連携等に関する研究。

エ 特別支援学校

※回答数が7であることから、テキストマイニングは行わず、全文掲載とする。

- ・ 特別支援教育における教科等を合わせた指導の学習指導案の様式や指導案の書き方
- ・ 重度重複障がい児者のためのコミュニケーションスキルとしてのICT活用
- ・ 特別支援学校における働き方改革の推進
- ・ 本校は4つの障がいに対応した教育を行っているため、教育課程と指導・支援について個別化、細分化の良さと難しさの両方を感じているところです。他校（県外も含め）の実践等を知り、自校の取組の参考にしたいと考えています。
- ・ 知的障がい教育の各教科等合わせた指導と各教科との関連
- ・ 地域との連携に基づいた教育活動の推進
- ・ 学習評価の在り方について

(6) Gアップシート・Gベース活用状況に関する調査（中・高：質問19）

【質問19】 中学校の学力向上対策及び高等学校における学び直しとして作成したGアップシート・Gベースをどの程度活用していますか。

	おおいに活用している	ある程度活用している	あまり活用していない	活用していない
中学校	23 (15.6%)	78 (53.1%)	35 (23.8%)	11 (7.5%)
高等学校	0 (0.0%)	0 (0.0%)	17 (23.3%)	56 (76.7%)

中学校では肯定的回答（「おおいに活用している」と「ある程度活用している」の合計）が68.7%であるのに対して、高等学校では肯定的回答が0%となっている。「活用していない」の回答についても、中学校が7.5%であるのに対して、高等学校は76.7%となっている。また、中学校の肯定的回答については、前回調査の82.9%から減っている。

Gアップシートについては、中学校の学力向上対策として活用されているものの、作成から年数が経過し、その活用の割合が減っていること、高等学校の学び直しにはほとんど活用されていない。

(7) スタートカリキュラムに関する調査（小：質問19）

【質問19】 市町村作成の「円滑な接続に向けた検討の際に手立てとなる全体像」を園と共有していますか。

	渡している	渡していない
小学校	186 (64.6%)	102 (35.4%)

(8) スタートカリキュラムに関する調査（小：質問20）

【質問20】 園・小学校での子供の生活の流れや活動について共有した上で、スタートカリキュラムを作成していますか。

	共有し、作成している	共有していないが、作成している	共有したが、作成していない	共有も作成もしていない
小学校	183 (63.6%)	91 (32.6%)	9 (3.1%)	5 (1.7%)

(9) スタートカリキュラムに関する調査（小：質問21）

【質問21】 作成したスタートカリキュラムを就学元の園に渡していますか。どちらか選んで回答してください。（スタートカリキュラムを作成している274校対象）

	渡している	渡していない
小学校	141 (51.5%)	133 (48.5%)

(10) スタートカリキュラムに関する調査（小：質問 22）

【質問 22】 幼保小間での子供の交流をしていますか。

	交流している	交流していない
小学校	190 (66.0%)	98 (34.0%)

(11) スタートカリキュラムに関する調査（小：質問 23）

【質問 23】 幼児と児童の双方に学びがある交流を行うために事前・事後打合せ等を工夫していますか。（幼保小間での子供の交流をしている 190 校対象）

	工夫している	工夫していない
小学校	146 (76.8%)	44 (23.2%)

市町村作成の「円滑な接続に向けた検討の際に手立てとなる全体像」を園と共有している小学校は、64.6%となっている。

次に、スタートカリキュラムについては、約 95%の小学校が作成している。その作成にあたって、園や小学校での子供の生活の流れや活動について共有している小学校は 6 割以上であり、作成したスタートカリキュラムを就学元の園に渡している小学校も 5 割以上となっている。

また、幼保小の交流をしている小学校は 66.0%となっており、そのうちの 76.8%が幼児と児童の双方に学びがある交流を行うために事前・事後の打合せ等を工夫していることがわかる。

5 研修・支援・研究業務への意見・要望

意見・要望に関する調査（小：質問 24、中・高：質問 20、特：質問 19）

[自由記述]

【質問】総合教育センターの業務全般にかかわって、ご意見、ご要望等がありましたらご記入ください。

<講座等の研修全般に関すること>

ア 研修講座の内容に関する意見・要望

- ・新しい研修制度が始まるにあたり、貴センターでの研修に係る情報だけでなく、全国の研修情報等を集約あるいは紹介していただくと大変助かります。
- ・GIGA タブを使った研修において、同じ県内でも OS の違いやアプリの種類、端末のスペック等様々であるので、そこにも配慮した研修をお願いしたい。（せっかく学んでも、「学校で使えない」「活用できない」という不満が生じるとのことです。）
- ・養成講座、出前講座の拡充。

<当センターからの回答>

- ・他県の教育センター等でどのような研修が行われているかについては、教育センター同士のネットワークや協議会を通じて、互いにどのような研修を行っているか情報交換を行っています。現場に役立つセンターをテーマに、少しでも役立つ情報提供を今後とも行って参ります。
- ・GIGA スクール構想によって、県内各市町単位で様々な端末が採用されました。そのため、いずれかの端末環境を想定した研修を計画すると他と合わない状況ができてしまうのが現状です。ソフト、アプリが違って、汎用的な機能を取り上げながら対応するほか手立てがない状況であり、その点についてご理解をいただきところです。
- ・当センターでは、情報活用能力の育成の在り方を踏まえた資質能力の向上はどうあるべきかを柱にして、研修講座の内容に盛り込むように検討を進めているところです。
- ・要請研修や、随時研修を広く行っています。市町村教育委員会、学校、個人を対象として、その要望に応じた研修講座を実施しています。主体的に学ぼうとする教職員を支援できるようにこれからもニーズに合わせた研修を実施していきます。

イ 研修講座の実施形態に関する意見・要望

- ・ネット研修と参集式の研修のバランスを図りながら研修を実施していただきたいです。
- ・参集型とオンラインのハイブリッド型を今後も進めて欲しい。
- ・地理的に距離があることや学校規模から出張も厳しい面があるため、オンラインでの開催の充実もお願いしたいところです。
- ・本校はセンターまでの距離があるため、オンラインでの受講が増えるとありがたいです。
- ・学校の立地上、センターでの研修に参加するのが難しいので、オンラインで受けられる研修が増えると参加しやすくなると思います。

- ・オンライン研修やサテライト研修にしていただけただけのため、授業に穴をあけることなく研修に参加することができました。今後も参集型とともにサテライトやオンライン研修を行っていただけたらありがたいです。
- ・校内でのオンライン研修の環境が整っていないことを理解してほしい
- ・コロナが終わり、従来の研修や出張を実行させたい。対面式で進めたい。

<当センターからの回答>

- ・オンデマンド型研修やライブ型研修について、多くの研修者から負担を軽減できたとの評価をいただいています。今後も、オンラインによる研修講座を考慮しつつ、集合型による顔を合わせた研修のメリットも盛り込んだハイブリッド型の研修も検討していくなど、研修者の声を大切に計画していく予定です。

ウ 研修講座の参加に関する意見・要望

- ・センターの研修に参加すると、自校の教育活動に活かせる学びがたくさんありますが、希望研修ではなかなか参加できない現状もあります。若い先生方こそ多くの研修に参加するべきだと呼びかけたいと思います。
- ・向上心のある教員は貴センターの研修を積極的に活用しており、授業力向上に役立っております。今後も魅力ある研修の機会を創出していただきますようお願い申し上げます。
- ・センター研修には、受講したいと思う講座がたくさんあるが、学校現場は多忙化や人員不足、業務過多で、研修を希望できる状況にない。研究や研修を進めたい気持ちはあるが、現場にはその力がない。
- ・今後も教員個々が自分事としてとらえ実践的に学ぶ機会を設定してください。
- ・魅力ある研修の機会・場を今後もたくさんお願いします。
- ・様々な領域に関する研修を企画いただきありがとうございました。
- ・情報共有の場として研修会を今後も充実させて頂きたい。

<当センターからの回答>

- ・日常業務の多忙さからなかなか研修に行けないという声が届いています。岩手県教育委員会とも連携し、研修に参加しやすい研修講座の在り方を検討して参ります。
- ・主体的に学ぶ児童生徒たちを育む教育活動のロールモデルとなれるような研修内容の吟味精選を図って参ります。

<教材開発に関すること>

- ・ICTを使った教材について、各学校または教育センターで作成したもの（Gアップシートのものや以前アップしていただいた算数の思考力問題等）を学年・教科・単元ごとに集約し、全県で使えるようにしていただけると便利だと思うし、学力向上にも役立つと思います。
- ・Gアップシートについて、ALTに文法を指摘されることがありました。
- ・Gアップシート（英語科）の改訂版をお願いしたい。
- ・Gアップシートの内容の見直しを希望します。
- ・Gアップシートの改訂

- ・ Gアップシートの各教科の授業で活用できる資料の提供。
- ・ Gアップシートのデータを、PDFだけでなく Word でも提供していただければ、使用する側でアップデートし活用できる。
- ・ Gアップシートのデジタル化を進めてほしい。
- ・ タブレットを活用した対応でGアップシートの活用まで至っていない現状である。

<当センターからの回答>

Gアップシートは前回の学習指導要領に沿って作成したものであり、内容としては現在の学習指導要領に対応していない部分もあります。しかしながら、Gアップシートを活用しているケースも多いことから、現状のまま総合教育センターのHPには載せることにします。必要に応じて活用していただきたいです。

<研究に関すること>

ア 研究内容に関わる意見・要望

- ・ 令和の日本型教育（これからの教育）に対応する研究を進めていただきたい。
- ・ 教育は大きな転換期を迎えていると感じています。ICT活用や評価と指導の関係性も変わりましたが、現場ではまだまだ従来然とした部分が多く残っています。総論的な研究は大切ですが今日の一步明日の一步につながるような実践的な研究の推進を是非お願いしたいと思います。
- ・ 多岐にわたる分野での研究を広く提供していただいていることに感謝申し上げます。教育活動の実践に大変役立っております。

<当センターからの回答>

昨年度は、各教科でICTを活用した授業実践を行い、ICT活用実践事例集を作成するなど、学校現場での授業実践の参考となる研究を行いました。今後も、全国的な教育の動向を捉え、また本調査をもとに学校現場のニーズを的確に把握して、皆様の期待に応えられるよう研究内容の充実に努めて参ります。

イ 教育研究発表会に関する意見・要望

- ・ 研究発表会での基調講演などは、パスワードなどをつけて何度でも見られるようにしていただけたらありがたいです。（個人的には2年前？ぐらいの田中博之先生のお話をもう一度ぜひお聞きしたいです）
- ・ 2月のセンター発表の内容を充実させてほしい。
- ・ 教科別分科会は学びが多いので、今後も実施してほしい。
- ・ 岩手県教育研究発表会は貴重な研修機会ですが、時期的に交通安全が心配されることや、移動時間の短縮、密集の回避、教員の参加しやすさを考えると、さらにリモート研修の形にシフトしていくほうがよいのではないかと考えます。
- ・ 今後も岩手県教育研究発表会への参加を促進し、最新の研究から学ぶ貴重な機会としたい。

<当センターからの回答>

教育研究発表会には、例年多くの先生方にご参加いただいているところです。日頃から本県教育の充実・発展にご尽力いただいている先生方のお役に立つ内容となるよう、発表会のテーマや講演内容は、その時々今日の教育課題に鑑みて設定しております。また、分科会の設置にあたっては、毎年、県内各市町村教育委員会、教育研究所をはじめ、各教育関係団体等から発表校の推薦を受け、その状況に応じて設置分科会を決定しております。その他、岩手県教育委員会事務局の施策に則り、本県教育課題として注力すべき分野に関わる特設分科会を設置しております。すなわち、本県の先生方が現在取り組まれている教育研究、解決すべき課題、そして今後、教育現場に起こることが予想される変化等に対応した学びが得られる内容になっていると言えます。今後も、県内各方面からのご意見をもとに教育研究発表会の内容を充実させ、より多くの先生方の参加をいただいて、本県教育の充実に資するものとなるよう、努力して参ります。

教育研究発表会の実施形態については、ここ数年間、新型コロナウイルス感染症への対応と併せ、冬季の移動に係る交通安全や遠隔地からの移動時間、教職員の働き方改革等の観点から、特にライブ型、オンデマンド型の充実に配慮しているところです。令和5年度の発表会では、ライブ型、オンデマンド型にYouTubeの活用を予定しており、視聴に必要なURLは、参加申込の有無に関わらず、県内すべての学校、教育関係機関に提供する方法を検討しております。このことで、より多くの先生方にご参加いただくことが可能になるとともに、各学校における校内研修会として発表会を視聴するなど、様々な活用の方法が考えられます。

過去の講演等の視聴については、当センター閲覧室に資料を備えてありますので、ご連絡をいただければ対応いたします。また、当センターHP等を活用した随時公開について、講師の了承を得られたものについては、今後検討して参りたいと思います。

ウ 教育研究岩手に関する意見・要望

- ・教育研究岩手の内容は素晴らしいと思うが、教諭レベルで積極的に活用しようという内容になっていないと感じる。

<当センターからの回答>

これまでも、指導実践例の紹介や教師のためのワンポイントアドバイス等現場の役に立つ内容の作成に心掛けてきましたが、より一層教員が積極的に活用しようと思えるものに改善して参ります。

エ 研究の発信に関する意見・要望

- ・研究の成果物を大いに活用するために、様々なデータを掲載していただければと思います。
- ・研究成果物を見るための手続き（ログインやパスワード入力等）や検索の仕方が少々複雑なので、簡単に見られるようにしていただけるとありがたいです。
- ・今年度学校公開でしたが、各教科の指導案例を活用させて頂き参考になった。また、Wordに対応した指導案の様式等も提供して頂き助かった。
- ・ホームページへの指導案の掲載を今後も即時的にお願いできればありがたいです。

＜当センターからの回答＞

研究成果については、岩手県教育研究発表会で発表し、報告書や資料などはホームページにも掲載しております。また、前年度の研究成果を踏まえた提案授業も実施し、研究成果の普及に努めております。ぜひ学校現場で積極的に活用していただければと思います。

また、当センターのホームページは昨年11月にリニューアルしており、必要な情報にアクセスしやすくなっております。学習指導案も掲載しておりますので、活用していただければ幸いです。

オ センターの研究の活用に関わる意見・要望

- ・いつもたくさんの研究成果をありがとうございます。今後も教育活動の充実に役立てていきたいと思っております。
- ・県内の教育研究の在り方を示していただき、感謝いたします。
- ・いつも参考になる研究成果を提示していただきありがとうございます。
- ・本校職員のよりどころとして、様々な情報や実践例を活用させてもらっています。今後もしよろしく願いいたします。
- ・来年度は教育センターの研究資料等をもっと活用したいと思っておりました。
- ・活用を促し、校内研究の推進に役立てていきたいと思っております。
- ・研究成果をたくさん示して下さっていたのに、活用できず申し訳なく思います。これからは、ぜひ目を通し活用していきたいです。

＜当センターからの回答＞

研究成果を活用していただきありがとうございます。当センターでは現場のニーズに応えられるよう、研究内容の充実に努めており、その研究成果を踏まえた提案授業を実施しております。実際の授業を通して、研究の成果をどのように活用してか考える機会も設けておりますので、是非参加していただき、今後の教育活動の充実につなげていただければと思います。

＜要請研修に関すること＞

ア 要請研修の内容に関わる意見・要望

- ・ティーチャーズトレーニングやペアレントトレーニングを気軽に受けられる体制を作っていただけたらありがたいです。
- ・本校の校内研でICT活用研修や特別支援等の研修の講師をしていただけるのでしょうか。
- ・今後とも研修に係るご指導をよろしくお願いいたします。本校は今年度で統廃合になりますがそれに伴い生徒指導面での様々な問題も考えられますのでいろいろ教えて頂ければありがたいです。

＜当センターからの回答＞

教科の指導法だけではなく、ICT活用や特別支援教育、そのほか領域や生徒指導についても、現場の多様なニーズに対応して参ります。研修の内容についてご不明な点があれば、気軽にご相談ください。

イ 今後の要請研修に関わる意見・要望

- ・本校のように、地理的に総合教育センターから離れた学校（市町村）向けに、研修担当者が赴いたりWEBによる研修（時間的な融通の利くもの）が行われたりといった機会を更に増やすと、総合教育センターの研究成果が岩手の教育効果に更に強く寄与するように考えています。
- ・今後とも資料の提供や出前授業等の提供をしていただけるとありがたいです。
- ・要請研修への対応及び自己研修への支援を今後も継続してほしい。
- ・なかなか訪れることができませんので、来年度、校内研修会での講師をお願いしたいと思っています。その時はよろしくお願いします。

<当センターからの回答>

現場に役立つセンターを念頭に、遠隔地や被災地への研修の機会を確保できるように研修を実施しています。市町村教育委員会とも連携し、より学びが深まるような研修が実施できるように努めて参ります。また、教材等の提供についてもご相談ください。

ウ これまでの要請研修に関する意見・要望

- ・研修のみならず、実験機材の貸し出しやネットワークトラブルの対応に関するアドバイスをいただけて助かっています。
- ・今年度、年度途中から本校職員の指導力等について、校長としての関わり方をご支援いただき大変感謝しております。次年度も可能であれば継続をお願いいたします。

<当センターからの回答>

学校、教職員の皆様からのニーズにできる限り応えていけるよう努力を続けて参ります。

<この調査に関すること>

ア 幼保小の連携に関する意見・要望

- ・小学校入学する園児の確定が、年度末になることと、多数の園から入学することになるため、共有は難しいと思われれます。他校のスタートカリキュラムの共有の効果的な例がございましたならば、教えていただきたいです。

<当センターからの回答>

架け橋プログラムの推進が広がる中、就学前教育施設とのカリキュラムの共有に取り組み始めていただき、ありがとうございます。複数の園とカリキュラムを共有している例は少ないですが、入学する子の多くが在籍する園とカリキュラムを共有し、保育・教育に生かしている例が「いわて就学前教育振興プログラム（R5.3月）」に掲載されています（岩手県教育委員会のHPからダウンロード可）。pp76 - 78に資質・能力のつながりを幼保小双方の教員で共有する例が、pp79 - 82に園や市町村から示された就学前教育施設のカリキュラムをもとに小学校のスタートカリキュラムを見直した例があります。また、本調査の幼稚園等の集計結果の回答結果も参考にしてください。

イ 本調査に関する意見・要望

- ・ 決裁を受けてから提出したいので、このようなアンケート調査には、保存・印刷機能を付けてくださると有難いです。

<当センターからの回答>

Microsoft Forms の仕様上、今回回答いただいた時点では保存はできませんでしたが、保存の機能が追加されましたので、次回の回答時には、保存・印刷が可能になります。

<情報発信に関わる意見・要望>

- ・ いつもお世話になっております。新たな話題ほど、重要度の高低が分かりづらいときがあります。特に大切な話題、推奨したい話題については、重要度を強調して連絡していただけたら、大変ありがたいです。
- ・ 様々な分野に渡る研究・研修があり、多忙を極めるところだと思われるが、できるだけの情報発信をお願いしたい。
- ・ 教育センターの新しい Web ページがとても見やすく使いやすくなり、効率的な業務遂行の上で助かっています。
- ・ つねに HP を見させていただいております。新しいデザインがとても見やすく、本校職員にも閲覧を進めております。今後とも最新の教育情報を提供していただきますよう、よろしくお願いいたします。
- ・ 個人的に教育センターのフェイスブックページを登録しています。実際にセンターには1年に1回行くかどうかという状況なので、岩手県が目指す教育研究を記事から感じられてとても良いです。研究成果についてもこのアンケートで初めて知る状況になってしまったので、SNS で紹介されれば参考にしたものもあったかもしれません。可能な範囲で検討をお願いできれば幸いです。
- ・ 若手の先生方等に紹介してもよい場面が今まではあったが、交流ネットの記事は簡単な紹介だけなので、余裕がないと深く検索できないと感じています。外部講師の先生方の紹介なども流れてくると気にとめる回数が増えると思います
- ・ 交流ネット記事の情報が多すぎて見づらく読み切れない。
- ・ メールマガジンの見直し。
- ・ 定期的に研修会等の案内をメールで配信してくださり、とてもありがたく思っております。
- ・ すてきなメールを職員一同楽しみにしておりました。感染症対策や学校の事情等でなかなか研修に伺うことができかねておりましたが、それにより気づきや元気を頂いておりました。ありがとうございました。

<当センターからの回答>

情報発信も、当教育センターの重要な役割であると考えております。大切な情報が伝わりにくい、最新の情報提供をお願いしたいという貴重なご意見を受け、発信する内容についての見直し、検討を進めて参ります。学校に役立つ教育情報を、より多く提供していきたいと考えております。

センターのHPも、研修の情報やこれまでの研究成果をより見やすく、より分かりやすく発信することができるよう、改善を加えて参ります。

＜その他の意見・要望＞

- ・センターとして取り組んでいる内容が現場に伝わらない、活用されていないことが多いです。研修や訪問があるとそれに伴って準備等必ず現場の負担となっています。困っている先生の助けになることを期待しています。
- ・現在本校では、1年生においてソーシャルスキルの未熟さによる生徒指導上の問題が多発している。学力向上は確かに大切であるが、落ち着いて学習に臨む環境にないため大変苦慮している。このような生徒指導面に参考となるような資料などはないか。
- ・精力的な研究・研修に学校・教職員は支えられています。早いスピードで変化が求められる教育現場で、今後、センターが果たす役割は大きいと思います。期待いたします。
- ・引き続き、最新の教育課題に係る情報提供をお願いしたい。
- ・教育センターを身近に感じられる企画の実施。

＜当センターからの回答＞

多様な児童生徒に日々心を砕いて接していただき、ありがとうございます。

小学校については、岩手県教育委員会が令和2年度に改定した「支援が必要な幼児の育ち合いを促す保育ガイドー特別支援教育園内体制づくりをとおしてー」（岩手県教育委員会のHPからダウンロード可）のpp21 - 28に就学前教育施設において育ち合いを促す保育を進めるためのポイントが掲載されています。県内の就学前教育施設の先生方に活用いただいていますので、入学当初における子供達の安心した集団生活づくりの参考にご活用ください。

令和4年12月に改訂された『生徒指導提要』第2章 生徒指導と教育課程に、学校の様々な場面（学習指導、学級経営、教科指導、道徳、特別活動）での生徒指導のヒントが書かれていますので、参考にしてください。

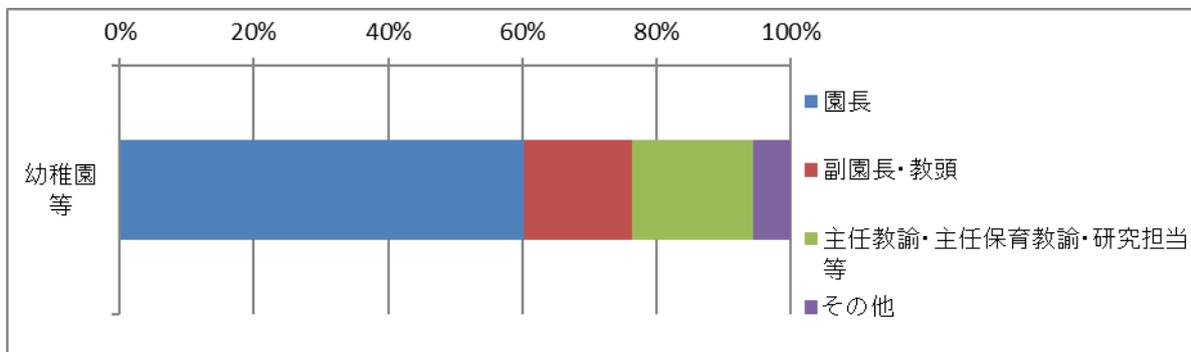
Ⅲ 研修・支援・研究業務の推進に関する調査・分析（幼稚園）

1 回答者に関する調査（質問2・3）

【質問2・3】回答者の職名（分掌）を次の中から一つ選んで回答してください。

	幼稚園等
園長	97
副園長・教頭	26
主任教諭・主任保育教諭・研究担当等	29
その他	9

割合	幼稚園等	R2	H30	H28
園長	60.2%	38.7%	54.5%	39.2%
副園長・教頭	16.1%	36.8%	22.8%	45.1%
主任教諭・主任保育教諭・研究担当等	18.0%	24.5%	22.8%	15.7%
その他	5.6%			



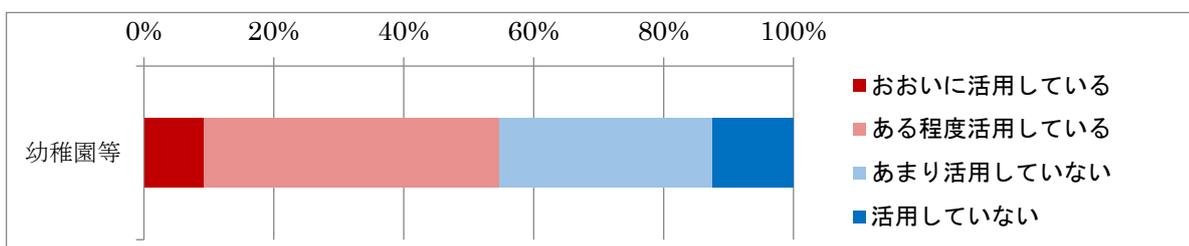
2 研修業務推進に関わる調査

(1) 研修活用状況に関わる調査（質問4）

【質問4】回答者からみて、貴園職員が当センターで研修した内容をどの程度活用していますか。

	幼稚園等
おおいに活用している	15
ある程度活用している	73
あまり活用していない	53
活用していない	20

割合	幼稚園等	R2	H30	H28
おおいに活用している	9.3%	9.4%	14.6%	15.7%
ある程度活用している	45.3%	50.0%	47.2%	64.7%
あまり活用していない	32.9%	31.1%	24.4%	13.7%
活用していない	12.4%	9.4%	13.8%	5.9%



研修講座、調査対象の園の数、感染症の状況等、前回調査と異なっているため、単純に比較はできないが、前回調査と比較し、当センターでの研修をおおいに/ある程度活用していると回答した割合は減少傾向にある。

(2) 活用している研修（質問5） [自由記述]

【質問5】「質問4」で「おおいに活用している」「ある程度活用している」と回答した場合のみお答えください。どのような研修内容を学校で活用していますか。

回答内容	回答数	R2	H30	H28
幼保小接続	7(8.0%)	—	—	—
幼児期の特別支援教育	5(5.7%)	—	—	—
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	4(4.5%)	—	—	—
その他	67(80.7%)			

※今回調査で回答数の多いもの、上位3項目

活用している研修講座の内容として最も多く挙げられているのは、幼保小接続（幼保小の架け橋プログラム）であり、幼児期の特別支援教育、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、危機管理や食育などの分野別研修が続く。

回答から、これらの研修内容が単独ではなく、資質・能力、主体的、対話的で深い学び等を意識しながら指導計画を作成、改善する等、PDCA サイクルやカリキュラム・マネジメントを推し進めるように活用されている。

これらのことから、これまでの研修で扱ってきた10の姿の具体的な指導内容の周知、理解が進んでおり、幼児教育、保育の基礎的な内容から現代的な内容まで、現場のニーズに応える研修が展開されていると捉える。今後もニーズの把握に努め、研修の充実を図るよう努めていく必要がある。

(3) 活用していない理由に関わる調査（質問6） [自由記述]

【質問6】「質問4」で「あまり活用していない」「活用していない」と回答した場合のみお答えください。当センターで研修した内容を活用していない理由は何ですか。

回答内容	回答数	R2	H30	H28
園の事情	14(20.8%)	13.2%	4.9%	—
参加する機会がない/参加したことがない	11(16.4%)	10.4%	22.8%	11.8%
コロナ禍で研修への参加を控えた	10(14.9%)	—	—	—
個人研修にとどまっている 園全体の活用になっていない	6(9.0%)	5.7%	—	—
その他	27(39.7%)			

※今回調査で回答数の多いもの、上位4項目

当センターでの研修内容を活用していない理由として最も多いのは、職員体制など「園の事情」（20.8%）、次いで「参加する機会がない/参加したことがない」、「コロナ禍で研修への参加を控えた」である。このほか、職員会議等の場で研修内容を共有するが、内容を深めるまでには至っていない、移動に時間がかかる、という理由もあった。（質問7）

活用状況、（質問8）取り上げてほしい研修内容及び（質問28）要望からも、コロナ禍で研修を控えていたこともあり、集合研修で知見を得たいという希望もある一方で、職員体制の関係でオンライン受講可能な他の研修に参加している、少ない職員で長い保育時間ではオンライン研修ですら参加できないでいる、という状況がうかがえる。

就学前教育施設は設置主体や管轄が多様なことから、他団体が主催する研修も含め、各園が参加のしやすさや内容のニーズに合わせて研修を選択している。厳選して受講した研修だからこそ、全職員で研修内容を検討し、業務の改善につなげていきたいが至っていないと考える園もある。

研修の充実と周知に継続して取り組むとともに、講座の内容に適した実施形態（集合、オンデマンド、オンライン等）の工夫を検討し、研修後の各園における内容周知までを意識した研修を展開していく。

（4）センターの研修内容として取り上げてほしいこと（質問7）

【質問7】貴園の課題を解決するために、総合教育センターの研修内容として取り上げてほしいことを、以下の具体的内容から選んで回答してください。（複数選択可）

回答内容	回答数	R2	H30	H28
幼児教育の動向	62(38.5%)	17.0%	21.1%	25.5%
指導計画の作成	61(37.9%)	23.6%	22.0%	15.7%
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	63(39.1%)	38.7%	55.3%	—
5領域に関すること	29(18.0%)	5.7%	8.9%	13.7%
幼小接続(幼保小の架け橋プログラム)	80(49.7%)	28.3%	26.8%	17.6%
指導と評価に生かす記録	69(42.9%)	46.2%	39.0%	43.1%
子育ての支援	58(36.0%)	18.9%	8.9%	11.8%
家庭や地域との連携	39(24.2%)	9.4%	13.8%	5.9%
幼児期の特別支援教育	79(49.1%)	34.9%	37.4%	29.4%
園内研修	70(43.5%)	29.2%	26.8%	21.6%
学校評価・園評価	39(24.2%)	15.1%	6.5%	9.8%
カリキュラム・マネジメント	31(19.3%)	9.4%	13.8%	—
ICT活用	35(21.7%)	—	—	—
分野別研修(例:危機管理、食育、協働的な学び等)	39(24.2%)	—	—	—
その他	8(5.0%)	5.7%	1.6%	2.0%

※今回調査上位5項目を色づけ

前回調査で上位に挙がっていた5項目すべてが今回も上位であった。

前回の調査で5番目に要望の多かった「幼保小接続（幼保小の架け橋プログラム）（前回まで「小学校との接続）」（49.7%）が、今回の調査では1番多い結果となった。

次いで、「幼児期の特別支援教育」（49.1%）、「園内研修」（43.5%）が挙げられている。また、前回最も要望の多かった「指導と評価に生かす記録」（42.9%）（前回46.2%）、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（39.1%）と続き、上位5項目が占める回答の割合が40～50%と高くなっている。

(5) センターの研修として取り上げてほしい研修内容 (質問8) [自由記述]

【質問8】「質問7」で選択した研修内容として具体的にどのような内容を取り上げてほしいですか。

回答内容	回答数	割合	
幼児教育の動向	62	38.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の政策が幼児教育にもたらす影響 ・ 子どもの社会的背景 ・ 幼児教育の取り組みの方向性、課題
指導計画の作成	61	37.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育保育要領に基づく保育と保育教諭の役割 ・ 認定こども園に移行に向けての全体計画や指導計画の作成
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	63	39.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの現場の意見や現実に即した内容の研究・研修 ・ 10の姿やなめらかな接続について
5領域に関すること	29	18.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境構成と援助について ・ 危機管理、安全教育について、園児の怪我、ヒヤリハット、安全対策など ・ 食育
幼小接続(幼保小の架け橋プログラム)	80	49.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼小接続のために小学校教育の理解を進める研修 ・ 10の姿やなめらかな接続について ・ 幼小接続に関わり、育って欲しい姿について、それぞれの現場の意見や現実に即した内容の研究、研修 ・ コミュニケーション力を育むための幼児期からの関わり ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導計画作成 ・ 幼保小接続の架け橋プログラムの概要、理解が不十分なので勉強したい
指導と評価に生かす記録	69	42.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別計画の立案
子育ての支援	58	36.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児虐待の実態と対策について ・ 家庭保育力の弱い家庭への支援のあり方 ・ 家庭環境の多様化への対応、子どもの多様化への対応
家庭や地域との連携	39	24.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもは地域で育てるという考えの下、地域に開かれた園経営の推進 ・ 発達障害児とその保護者の対応について
幼児期の特別支援教育	79	49.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関と共に進めるための順序立て ・ 特別に支援を要する子に対する具体的な支援の在り方と家庭への働きかけや教育相談の仕方について ・ 特別支援とまでは、いかなくても気になる子が増えているためどういう対応が良いのか ・ 支援が必要な子の援助の方法、専門機関との連携 ・ 特別支援教育について、専門的な知識を学びたい

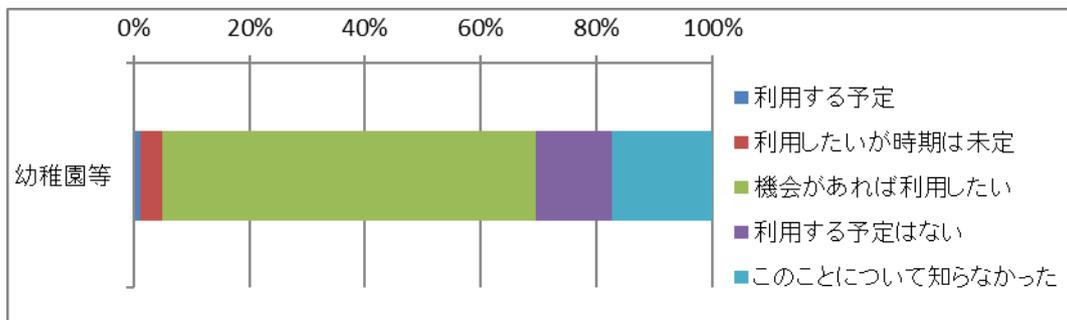
園内研修	70	43.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の現代的課題に応え質の高い保育を実現するためには ・ 配慮が必要な子への関わり、支援 ・ 主体性を育む保育
学校評価・園評価	39	24.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不適切な保育にならないように暇のない保育士たちはどのように話し合いをし、共通理解していけばよいか ・ 危機管理 ・ 保育中の事故防止、虐待等に関する知識など
カリキュラム・マネジメント	31	19.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画の作成
ICT活用	35	21.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ ITC 活用により取り残されない今後のシステム
分野別研修(例:危機管理、食育、協働的な学び等)	39	24.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危機管理について ・ 幼児虐待の実態と対策について ・ 食育 ・ 乳児保育・幼児保育 ・ チーム保育 ・ 協働的な学び ・ 施設長、給食担当職員、保育士が学べるような分野別研修
その他	6	5.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習生や新人育成に関する研修 ・ 子ども主体の保育

3 支援業務推進に関わる調査

(1) 教育相談（質問9）

【質問9】総合教育センターでは、幼児児童生徒、保護者並びに教職員に対して、学校・園生活や特別な支援に関する教育相談を行っています（電話相談、来所相談、訪問相談）。今後、この教育相談を利用する予定がありますか。

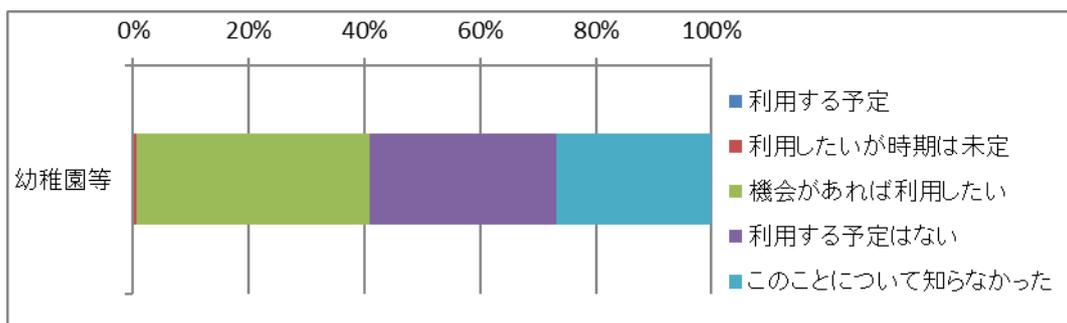
	幼稚園等	割合	幼稚園等	R2	H30	H28
利用する予定	2	利用する予定	1.2%	0.0%	2.5%	0.0%
利用したいが時期は未定	6	利用したいが時期は未定	3.7%	1.9%	0.8%	0.2%
機会があれば利用したい	104	機会があれば利用したい	64.6%	63.2%	49.6%	54.9%
利用する予定はない	21	利用する予定はない	13.0%	34.9%	47.1%	43.1%
このことについて知らなかった	28	このことについて知らなかった	17.4%			



(2) どようび相談（質問10）

【質問10】総合教育センターでは、「質問8」の教育相談のうち、来所相談を土曜日にも行っています。今後、この「どようび相談」を利用する予定がありますか。

	幼稚園等	割合	幼稚園等	R2	H30	H28
利用する予定	0	利用する予定	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
利用したいが時期は未定	1	利用したいが時期は未定	0.6%	1.9%	0.8%	0.0%
機会があれば利用したい	65	機会があれば利用したい	40.4%	46.2%	33.6%	43.1%
利用する予定はない	52	利用する予定はない	32.3%	51.9%	64.8%	56.9%
このことについて知らなかった	43	このことについて知らなかった	26.7%			



4 研究業務推進に関わる調査

(1) センターの研究の活用状況に関する調査（質問 11）

【質問 11】 総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。これまでの研究成果物の中で、貴園の教育活動の充実に役立ったと思うものがありましたら選んでください（複数選択可）

	回答数	割合
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の具現化に関する研究－低学年の発達の特性に応じた指導の工夫・改善とその推進体制づくり－（令和元年度）	36	20.3%
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の具現化に関する研究－子供の発達や学びをつなぐ生活科を中心としたカリキュラムの作成と実施を通して－（平成 30 年度）	26	14.7%
幼稚園・こども園・保育所における子育ての支援の進め方に関する研究－親と子が共に育つ支援の質的充実を図るための事例集作成を通して－（平成 27 年度）	21	11.9%
該当なし	94	53.1%

3つの成果物のうち、「幼小接続」に関わるH30・R元年度研究の活用率を合わせると35.0%となっているものの、R2調査の時より下がっている。

「特になし」の割合が、53.1%で前回より上がっている（R2は49.1%）。次項の「研究成果物の入手方法」にも関わるが、集合研修の機会に成果物を入手していた園が多かったことから、コロナ対策による研修の中止や人数制限、オンライン研修への変更により、成果物に触れる機会が少なかったことが考えられる。

(2) 研究成果物の情報入手方法に関する調査（質問 12）

【質問 12】 「質問 11」で回答した研究成果物を、どのような方法で知りましたか。以下の項目から、知った方法として最も多かったものを一つ選んでください。

	回答数	R2	H30	H28
岩手県教育研究発表会	31 (19.0%)	35.2%	46.9%	35.7%
「教育研究岩手」	19 (11.7%)	18.5%	22.4%	25.0%
センターWebページ	17 (10.4%)	13.0%	10.2%	3.6%
研修資料	20 (12.3%)	27.8%	46.9%	0.0%
センターのメールマガジン	2 (1.2%)	0.0%	0.0%	0.0%
研究紹介リーフレット	9 (5.5%)	1.9%	0.0%	7.1%
他者からの紹介	5 (3.1%)	0.0%	4.1%	7.1%
その他	15 (9.2%)	3.7%	12.2%	21.4%
このような研究が行われていることを知らなかった	45 (27.6%)	—	—	—

今回の調査から、「このような研究が行われていることを知らなかった」という項目をたてたが、回答者の27.6%がこの回答を選択した。その関係で、他の項目は減少傾向にある。「岩手県教育研究発表会」19.0%、次いで「研修資料」12.3%で、前回調査と同様に総合教育センターを主会場とした集合研修的な場で情報を入手していることが分かる。前回調査と異なるのは、「岩手県教育研究発表会」においてR3～R4に総合教育センターの幼児教育に関する研究発表はなかったが、協議や助言の中に含まれていた研究の紹介を聞いた研修者自身が必要な情報と捉え、入手していると考えられることである。研修者が学ぶ気持ちを強くもって研修に参加していると捉えることができるのではないか。

上述に次いで「教育研究岩手」が11.7%で高い。センターから発出される研究成果物には、常に興味を持って見ていただいていると考えられる。回答した園の設置・施設形態に差はなかったため、今後も県全体の就学前教育施設に配付することが必要だと考えられる。

センターWebページからの入手は10.4%である。回答した17園の内、保育所が10園で、保育時間が長く集合研修になかなか来られない分、Webページ等を使用して情報を入手していると捉えられる。研修の際に研究成果物の活用についてお知らせしているが、R5から研修申込を交流ネットに切り替えているので、幼稚園・こども園もWebページを閲覧する機会が増えると考えられる。引き続き研修の際に研究成果物の活用についての周知を続けていく。

(3) センターの研究として取り上げてほしいものに関する調査 (質問13)

[自由記述]

【質問13】 貴園の課題を解決するために、総合教育センターの研究として取り上げてほしいことを、具体的にお書きください。

回答内容	回答数	R2	H30
幼児期の特別支援教育	22 (23.1%)	8 (7.5%)	6.5%
幼小接続	15 (15.7%)	5 (4.7%)	3.3%
園運営・教育課程	9 (9.4%)	6 (5.7%)	12.2%
園内研修	9 (9.4%)	—	—
少人数保育	7 (7.6%)	2 (1.0%)	—

※今回調査で回答数の多いもの上位5項目

(5) 教育体制に関する調査（質問 15） [自由記述]

【質問 15】「質問 14」で、「有」と回答した場合にのみお答えください。どのような悩みをどの機関に相談したのかを記入してください。

機関	回答数	具体的内容
市町村 教育委員会	25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が主体的に動き出したくなるような環境構成や援助について ・ 園内研究について ・ 中堅研修の評価(計画)について ・ 教育的ニーズを要する幼児の計画・対応・評価等について
発達支援 センター	16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別に支援を要する園児への接し方と保護者との連携・支援 ・ 要支援児の対応等について ・ 集団行動に反抗をする子が複数おり、クラス運営が難しかったので ・ 特別に支援を要する園児への接し方と保護者との連携・支援
幼児教育セ ンター	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達支援のあり方について ・ I C T化に伴う保育記録の保管の仕方
保健師	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育に係ること ・ 親、子の支援について
療育センター	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達の遅れ ・ 気になる子の対応
市町村 児童福祉課	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援を必要とするお子さんについての指導や保護者への対応など ・ 就学に向けて、小学校への連携などについて
子育て支援 センター	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援の必要な園児等について

(6) 教育課程に関する調査 (質問 16)

【質問 16】 近隣の園同士での教育課程の共有をしていますか。

近隣の園同士での教育課程の共有	回答	割合
共有している	42	26.1%
共有していない	119	73.9%

(7) 教育課程に関する調査 (質問 17) [自由記述]

【質問 17】 「質問 16」で、「共有している」と回答した場合にのみお答えください。共有したものをどのように保育に活用したかを記入してください。

教育課程 指導計画	25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報交換会や各園の年計を参考に本園の行事等に活用している。 ・ 自園の全体的な計画を見直す際に参考資料とした。 ・ 自園の教育課程の見直しや月案や指導案に、特に、5歳児の保育に活用しています。こういった機会は、とても必要だと感じています。 ・ 作成、編成の際に参考にしている。 ・ スタートカリキュラム
保育の質に 差	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同協会内での研修などで共有し、園に持ち帰り参考にさせてもらっている。 ・ 参考にしたい部分を取り入れるなど、保育の参考にしている。 ・ 姉妹園の取り組みを参考にし、自園にも取り入れている。

近隣の園同士での教育課程の共有は、前回調査より増加している（R 2は19園：17.9%、R 4は42園：26.1%）。自園の教育課程や指導計画の参考にしている園が25園で最も多く、互いの良さを取り入れながら保育を展開していることが窺える。また、姉妹園や同じ市町村内の保育の質に差が出ないために共有している園が12園あり、すべての5歳児の学びをつなぐために教育課程を共有し、就学先に繋げようとする意識が高い地域があることが分かる。しかし、県全体の4分の1に過ぎないことから、教育課程の共有の必要性をさらに周知していく必要がある。

(8) 教育課程に関する調査 (質問 18)

【質問 18】市町村作成の「円滑な接続に向けた検討の手立てとなる全体像」を小学校と共有していますか。

全体像	回答	割合
共有している	92	57.1%
共有していない	69	42.9%

小学校と「円滑な接続に向けた検討の手立てとなる全体像」（前回調査では「スタートカリキュラム」と表記）を共有している園が大きく増えた（R2は38園：35.8%、R4は92園：57.1%）。幼保小架け橋プログラムの取組に合わせて、各園と小学校が連携を意識して取り組み始めている結果と考えられる。

(9) 幼保小接続に関する調査 (質問 19)

【質問 19】園の指導計画を就学先の小学校に渡していますか。

指導計画	回答	割合
渡している	50	31.1%
渡していない	111	68.9%

(10) スタートカリキュラムに関する調査 (質問 20)

【質問 20】園児の就学先小学校からスタートカリキュラムが示されていますか。

就学先小学校からのスタートカリキュラム	回答	割合
示されている	76	47.2%
示されていない	85	52.8%

小学校からスタートカリキュラムを示されている園は76園：47.2%で、R2と比較して増えている（39園：36.8%）。一方、小学校に園の指導計画を渡している園は50園：31.1%である。

(11) スタートカリキュラムに関する調査（質問 21）

【質問 21】「質問 20」で、「示されている」と回答した場合のみお答えください。就学先小学校がスタートカリキュラムを作成する際、作成に関わりましたか。

スタートカリキュラム	回答	割合
作成にかかわった	11	14.5%
作成にかかわっていない	65	85.5%

就学先小学校のスタートカリキュラム作成に関わった園の割合は大きく減っている（R2は26園：66.7%、R4は11園：14.5%）。コロナ対策で、教員同士の交流が減ったことが要因ではないかと考えられる。関わった園が求められた意見は、教育内容の交流、入学時の具体的な学習時間や内容の検討、カリキュラムのすり合わせ、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の共有等、接続において大事にしたい視点が含まれている。コロナ対策が変わってきた今、この11園の取組を共有し、スタートカリキュラム作成を地域ごとに行っていく体制作り（架け橋プログラムの取組の一環として）が求められる。

(12) スタートカリキュラムに関する調査（質問 22） [自由記述]

【質問 22】「質問 21」で、「作成にかかわった」と回答した場合のみお答えください。スタートカリキュラムの作成に関わってどのような内容を協議し、意見を求められましたか。

- ・小学校への滑らかな移行の推進ということで、小学校との連携会議を年間の予定に入れている。一年生と年長児との交流授業も行っている。
- ・幼児期の終わりまでに育って欲しい姿から就学までの流れ。交流の内容、時期。保護者支援の内容。
- ・R2スタートカリキュラムを見せてもらい「慣れさせるためにこのようなことを教える」と説明を受けた。園側として、ねらいや内容が適切であるかなど意見を述べた。（形にはめ込むことが慣れることではないのではないか）その後小学校では2“今までの経験を生かし、自律にむかうこと”をいしきしたスタートカリキュラムを提示された。
- ・入学後、新しい環境での生活が不安なく過ごせるにはどのようにしたらいいのか。学習時間や内容は適切かどうか。
- ・小学入学に向けてのなめらかな移行のために身に付けさせたいこと
- ・其々の施設の保育内容、活動を出し合い共有した。
- ・小学校と保育所のカリキュラムのすり合わせ
- ・小学校の立場で計画を立てる際、疑義があるか無いかの確認
- ・幼保小連絡協議会にて、各園と小学校のカリキュラムを提出し合い検討しました。
- ・作成時は関わりましたが2年目以降はコロナ禍もあり全く関わる事ができていません。

(13) 3要領・指針による教育・保育に関する調査（質問 23）

【質問 23】 貴園では、子どもの主体性を育むような環境構成や援助を行っていますか。

環境構成や援助	回答	割合
行っている	159	98.8%
行っていない	2	1.2%

(14) 園内研修に関する調査（質問 24）

【質問 24】 貴園では、子供の主体性を育む保育の展開のための園内研修を行っていますか。

園内研修	回答	割合
行っている	141	87.6%
行っていない	20	12.4%

5 研修・支援・研究業務への意見・要望

意見・要望に関する調査（質問 28） [自由記述]

【質問 28】 総合教育センターの業務全般にかかわって、ご意見、ご要望等がありましたらご記入ください。

各園からいただいた主な意見・要望と、当センターからの回答は以下のとおりです。

- ・ 今後はできればオンライン開催ではなく、通常開催が多くなればより良いと願います。
- ・ できるだけ対面の研修会を希望します。
- ・ 幼稚園教諭は研修機会が多くあるが、保育士は少ない。リモートでの研修会があれば一緒に学ぶことができます。
- ・ コロナの感染拡大が今後も続くと思われるので、引き続きWeb開催の研修機会を増やしてほしい。
- ・ 研修会場が内陸のため、職員の負担が大きく、参加を見合わせることもある。
- ・ 平日の研修会への出席は難しいのが現状。
- ・ 保育施設で、これまで教育関係期間との関わりが少なかったが、認定こども園に今後移行することもあり、積極的に関わっていききたい。
- ・ 今後、園児数が減っていく中でどのような保育が必要になってくるのか教えてほしい。
- ・ 幼児教育の動向について取り上げてほしい。
- ・ 幼児教育専門員による訪問研修のように、外部から見ていただく機会がありとても良かった。
- ・ 教育課程や保育計画についてもっと研修が必要と考えている。
- ・ 園内の研修会等でも指導をお願いしたい。
- ・ 研究の進め方を教えていただきたい。1年間など継続して教えてほしい。

<当センターからの回答>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修形態を模索しながら進めてきました。この2年で、集合研修とオンライン研修のそれぞれの長所・短所が見えてきたところですので、今後は皆様の意見を取り入れながら、各研修講座の内容に合った形態での研修を企画して参ります。また、世の中の動向や県全体の要望に合わせた研修内容の充実に努めます。

R4にいわて幼児教育センターが設置されました。現場の先生方が「この内容は総合教育センターで講座受講・随時研修ができる」「この内容の支援は幼児教育センターの専門員にお願いできる」など、ニーズに合った選択が出来るように、今後も「いわて幼児教育センター」との連携を取りながら、研修・支援・研究の充実に努めて参ります。

令和4年度

岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査結果

～現場に役立つ教育センターを目指して～



岩手県立総合教育センター 2023.9